

火災通報装置

総合説明書

第4版


2002年12月

目次

安全上のご注意	1
ご注意	4
1 装置	
1-1 概要	8
1-2 性能（機能）	8
1-3 構成	9
1-4 添付品	10
1-5 動作範囲	10
1-6 機能動作	11
2 設置及び工事	
2-1 設置場所	16
2-2 火災通報装置本体取り付け方法	16
2-3 119番通報押ボタン取り付け方法	18
2-4 結線工事	19
2-5 各種モード設定	24
2-6 装置の立ち上げ	24
2-7 ダイヤルデータ・通報メッセージの設定方法	25
2-8 動作試験	28
付図-1 火災通報装置システム構成図	
付図-2 火災通報装置外観図	
付図-3 火災通報装置構造図	
付図-4 設定用キー、ランプ、表示器詳細図	
付図-5 火災通報装置操作説明ラベル	
付図-6 119番通報押ボタン外観図	
付図-7 119番通報押ボタン構造図	

安全上のご注意 (必ずお守り下さい)

お使いになる人や他人への危害、財産への損害を未然に防止する為、以下に示す「警告」及び「注意」を必ずお守り頂く事をお願い致します。

	警告	(この表示の欄は「死亡、又は、重傷等を負う可能性が想定される」内容です。)
●電源はAC100Vを使用する。	→指定以外の電圧や電源で使用すると、火災、故障、誤動作の原因となります。 ※電源の配線工事には電気工事士の資格が必要です。 販売店にご相談下さい。	
●指定以外の端子に電源 (AC100V) を接続しない。	→ショートして火災、感電、故障の原因となります。	
●電源 (AC100V) を入れたまま配線工事をしない	→感電や故障の原因となります。 ※電源の配線工事には電気工事士の資格が必要です。 販売店にご相談下さい。	
●電源プラグを濡れた手でさわらない。	→感電の原因になります。	
●電源コードを束ねて使用しない。	→発熱する恐れがあり、火災や焼傷の原因となります。	
●付属品、又は、専用品以外を接続しない。	→指定以外の機器を使用すると故障、誤動作の原因になります。	
●雷の時は配線工事をしない。	→雷によっては火災、感電、故障の原因になります。	
●本体を開けたり分解、改造をしない。	→内部には高い電圧部分があり、火災、感電、故障の原因になります。 ※内部の点検や修理等は、販売店へご依頼下さい。	
●本体や端子等に水などをかけない。	→ショートして火災、故障の原因となります。 ※完全に乾いてからご使用下さい。	
●本体内に異物を入れない。	→通風孔等から金属類や紙類を入れると火災や故障の原因となります。	
●故障や異常状態では使用しない。	→火災や感電の原因となります。 ※故障や異常を感じたら、販売店にご相談下さい。	
●通風孔はふさがない。	→内部に熱がこもり、火災や故障の原因となります。	
●たこ足配線はしない。	→過熱してショートや火災の原因となります。	

安全上のご注意 (必ずお守り下さい)



警告

(この表示の欄は「死亡、又は、重傷を負う可能性が想定される」内容です。)

- コードの上に
・重いものを乗せる
・傷をつける。
・無理に曲げる。
・引っ張る。
等をしない。
→ショートして火災の原因になります。
※コードが損傷した場合は使用を中止し、販売店へ交換をご依頼下さい。
- 水のかかる場所 (屋外、浴室等) 又は、
湿気の多い場所には設置しない。
→感電や故障の原因になります。
- ヒューズ交換は、電源 (AC100V) を切り、
バッテリーコネクタを抜いた状態で行う。
→感電の原因になります。



注意

(この表示の欄は「傷害を負う、又は、物的損害発生の可能性が想定される」内容です。)

- 磁石等の磁気を帯びたものを近づけない。
→雑音発生、故障、誤動作の原因となる場合があります。又は、映像のある機器では画像の乱れ等の原因となります。
- 火気を近づけない。
→機器表面等が変形、劣化するほかに、故障の原因となります。
- 機器に強い衝撃や震動を与えない。
→故障や破損の原因となります。
- 硫化水素の発生する場所で使用しない。
→故障や機器の寿命が短くなる原因となります。
- 湿気やホコリの多い所に設置しない。
→感電や故障の原因となります。
- 直射日光、暖房設備、ボイラー等の特に
温度の上がる場所に設置しない。
→機器表面等が変形、劣化するほかに、故障の原因となります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラスB情報装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
総合説明書に従って正しい取扱いをして下さい。

安全上のご注意 (必ずお守り下さい)

■充電電池 (ニカド電池) について



警告

(この表示の欄は「死亡、又は、重傷を負う可能性が想定される」内容です。)

- | | |
|------------------------------|--|
| ●電池接続コネクタを金属でショートさせない。 | →火災、感電、故障の原因となります。 |
| ●電池は絶対に分解しない。 | →電解液は強アルカリ性ですので、皮膚や衣類を傷めたりします。
※万一液が身体についたら水でよく洗い流して下さい。 |
| ●交換した電池は、火中に投入しない。 | →電池が破裂する場合があります。
※ニカド電池はリサイクル可能な貴重な資源です。交換した電池はリサイクルに協力して下さい。 |
| ●電池のコネクタの差し込み方向は⊕⊖を間違えない。 | →⊕⊖を逆に差し込むと電池のふくれや破裂の危険性があります。 |
| ●電池のビニールカバーをはがさない。 | →電池の発熱や液漏れにより、火災や周囲汚損の原因となります。 |
| ●電池の充電は本装置で行うので、他の機器では充電しない。 | →ショートによる電池の発熱や液漏れによる火災やけが、周囲汚損の原因となります。 |
| ●電池の交換は電源スイッチを切って行う。 | →感電の原因となります。 |

(電池のリサイクルにご協力ください)



Pb



Ni-Cd



Ni-MH



Li-ion

この製品には、密閉型蓄電池 (小型シール鉛蓄電池・ニカド電池・ニッケル水素電池・リチウムイオン電池) を使用しています。密閉型蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。交換後不要になった密閉型蓄電池、及び使用済み製品から取り外した密閉型蓄電池のリサイクルに際しては、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るかポリ袋に入れて、当社営業店にお持ち下さるか、又はお近くのリサイクルボックスにお入れ下さい。お問い合わせは、製品、密閉型蓄電池をご購入いただいた当社営業店窓口へお願いいたします。

〈リサイクル時の注意〉

密閉型蓄電池はショートしないようにして下さい。火災・感電の原因となります。また、外装カバー (被覆・チューブなど) をはがしたり、密閉型蓄電池を分解したりしないでください。

ご注意

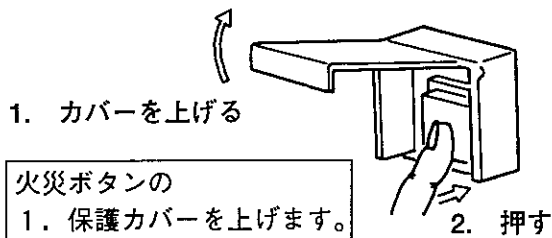
- 本装置の故障や誤動作等によって、通報できなかった事に対して付随する損害については、責任を負い兼ねますのでご了承下さい。
- 本装置は、「火災通報ボタン」又は「119番通報押ボタン」を押すことにより、火災を直接119番へ通報する機能を持っていますが、火災を防止する装置ではありません。火災事故による損害については、責任を負い兼ねますのでご了承下さい。

【ご使用にあたって】

- 本装置は、「火災通報ボタン」又は「119番通報押ボタン」を押すと直接119番へ通報します。いたずらは絶対に行わないで下さい。
- 誤報の場合は、速やかに「内蔵呼び返し応答用電話機」または増設「呼び返し応答用電話機」で訂正して下さい。
- 救急要請や救助要請、及び別の防火対象物の火災等の通報は、本装置では行えません。一般の電話機で行って下さい。
- 通報時に、消防機関から呼び返しがありますので、当該火災に関する具体的な内容を連絡して下さい。
- 本装置は、定期点検による維持管理が必要です。
- 本装置の定期点検による維持管理（消防法第17条の3の3の規定）には、消防設備士乙種第4類以上の資格が必要です。
- 定期点検の試験時に、119番との実回線を用いた試験を行わない場合は、専用の試験装置が必要です。
- 本装置に係わる保守点検は消防法32条3-3で義務づけられているもので必ず告事等に従い保守点検を行ってください。
- 本装置を廃止した場合は、消防機関へ連絡して下さい。
- 本装置を復旧させるには、各ボタンを復旧させ、通報取消ボタンを押して下さい。発報ランプは消灯し、火災通報ボタンランプは赤色点灯から緑色点灯に変わります。
- 工事、点検業者以外は、上ブタを開けないで下さい。動作に支障が生じる場合があります。
- 電源コンセントは絶対に抜かないで下さい。

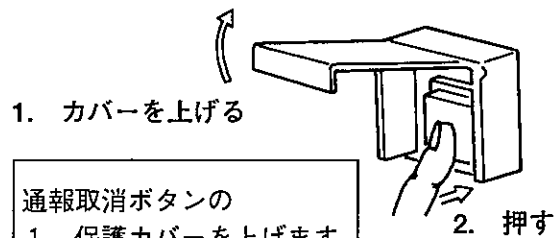
●ボタンの押し方

火災通報ボタンを押すときは、



火災ボタンの
1. 保護カバーを上げます。
2. ボタンを押して下さい。
(復旧時も同様です)

火災通報を取り消すときは、



通報取消ボタンの
1. 保護カバーを上げます。
2. ボタンを押して下さい。

【工事にあたって】

- 本装置の工事にあたっては、消防機関に対して工事着手の届出を行う必要があります。
- 本装置の設置には、消防設備士甲種第4類および工事担任者アナログ3種以上の資格が必要です。
- 本装置は、屋内専用です。屋外には設置しないで下さい。
- 電源を入れる前に、電池を接続しないで下さい。装置が動作しない場合があります。
- 本装置のL1、L2端子と回線の間には、他の装置の接続（直列、並列を問わず）は行わないで下さい。他の装置の影響により通報動作に支障が生じる場合があります。他の装置を接続する場合は、本装置の一般電話機接続端子に接続して下さい。
- 一般電話機は、火災通報装置の近傍に設置して下さい。又一般電話機としてのFAX又は留守番電話のご使用は行わないで下さい。
- 本装置は一般加入回線（アナログ）専用です。他の回線への接続はできません。
- 自動火災報知設備との連動は、消防機関の許可が必要です。
- オプション機器については、その機器に付属の説明書を参照して下さい。
- 本装置は直接119番へ通報します。設置後の誤通報、誤操作がない様に、取扱者（設置されたお客様）へ十分な取り扱い説明をお願い致します。



1-1 概要

本装置は、一般加入回線に接続して、本装置の火災通報ボタンの押下、または増設した119番通報押ボタンの押下、もしくは、本装置に接続される自動火災報知設備の起動により、119番及びあらかじめ設定してある連絡宛先（最大9ヶ所）を自動的に呼び出し、音声合成のメッセージを送出します。

1-2 性能（機能）

項目		性能・機能	記 事
使用回線及び回線数		一般加入回線（アナログ） 1回線	他の種類の回線は使用不可
ライン極性		無極性	
ダイヤル種別		ダイヤルパルス信号（10pps/20pps） または押しボタンダイヤル信号（PB）	
通報宛先記憶容量		10宛先（第一宛先は119番）	
ダイヤル番号記憶桁数		最大16桁	
表示		7セグメント 12桁LED	
119番通報	呼出時間	約40秒	
	休止時間	約10秒	
	呼出回数	約119番が応答するまで繰り返す	
一般通報	呼出時間	約40秒	
	休止時間	約10秒	1サイクル終了後の休止時間は、50秒
	呼出回数	1宛先毎に最大2回	
話中検知	119番通報	話中音検知で局線開放、15秒後再発呼し、相手応答まで繰り返す	
	一般通報	話中音検知で局線開放、15秒後次宛先へシフト、計2回まで発呼	1サイクル終了後の休止時間は、50秒
応答検知	119番通報	0.3秒以上の音声入力、もしくは、呼出音後の5秒以上の無音	
	一般通報	極性反転	
メッセージ方式		音声合成IC	（注1）
録音時間		16秒	
自火報連動入力		無電圧メーク接点	
119番通報押ボタン入力		ラッチボタン（状態表示ランプ付）	
外部出力電源		+12V±5% 0.1A	
電源		AC100V±10% 50/60Hz	
停電補償		90分間待機後15分間の動作	メモリバックアップ30日
バックアップバッテリー		1.2V×14個 Ni-Cdバッテリー	16.8V、500mA（注2）
消費電力		待機時10VA、動作時15VA	動作時最大23VA（119番通報押ボタン2個押下時）

項 目	性 能 ・ 規 格	記 事
外 形 寸 法	約257mm (W) ×約357mm (H) ×約110mm (D)	
重 量	約3.5kg	

(注1) ●メッセージ内容

メッセージは、内蔵のマイクロホン、または録音ジャックからテープレコーダー等により録音可能です。

●メッセージ内容は、本装置パネル上の火災通報ボタンの押下（もしくは増設した119番通報押ボタン）時と、自動火災報知設備の起動により2種類に区別されます。

(例) 火災通報ボタン入力では、

「ピッピッピッ、ピッピッピッ火事です。火事です。
こちらは、〇〇町〇〇丁目〇〇番地の〇〇ホテルです。
逆信願います。」

自動火災報知設備の起動では、

「ピンポン、ピンポン 自動火災報知設備が作動しました。
こちらは、〇〇町〇〇丁目〇〇番地の〇〇旅館です。
逆信願います。」

(注2) ●充電電池（ニカド電池）の寿命は約2年間です。停電の有無に関わらず電池は劣化しますので、必ず2年毎に交換して下さい。

●充電電池（ニカド電池）は、完全充電に要する時間が約48時間です。出荷時には完全に充電されていないので、設置後は必ず48時間以上AC電源を連続給電して下さい。

1-3 構 成

品 名	数 量	記 事
火 災 通 報 装 置	1 台	本体（呼び返し応答用電話機内蔵）
呼び返し応答用電話機	最大2台	オプション（技術基準適合認定品）
119番通報押ボタン	最大2台	オプション（指定品）

1-4 添付品

本装置は添付品は下表によります。

	名 称	数量	記 事
1	総合説明書	1	本書
2	電源コード	1	
3	ラインコード (Y端子付き) 約2m	1	中継端子盤直結の場合
4	ラインコード (MJ-MJ) 約15cm	1	モジュラーローゼット中継、壁内配線の場合
5	モジュラーローゼット	1	壁内配線の場合
6	ヒューズ (250V 0.1A)	1	
7	ヒューズ (250V 2A)	1	
8	ヒューズ (250V 3.15A)	2	
9	壁掛工事シート	1	
10	木ネジ	4	
11	コアー (ESD-SR-25)	1	
12	お客様登録カード	1	
13	火災通報装置使用上の注意	1	
14	メッセージ記録表及び近隣通知先記録表	1	

1-5 動作範囲

項 目	動 作 範 囲	
電 源	AC100 V ± 10 V、50Hz/60Hz	
119番通報押ボタン及び自動火災報知設備 移報接点まで配線ケーブル線路抵抗	導線径0.5mm配線 150m (200Ω)	
周 囲 温 度	動 作 時	0 ~ 40℃
	保 存 時	-10 ~ 50℃
周 囲 湿 度	20 ~ 90% (結露不可)	

1-6 機能動作

1-6-1 119番通報

(1) 手動起動動作

本装置の火災通報ボタン、または119番通報押ボタンが押されると、回線を一般電話機から本装置側に切り替え、119番に自動発信し、119番が応答すれば、あらかじめ録音されている手動起動メッセージを送出します。

(2) 自動火災報知設備連動動作

自動火災報知設備の移報接点を連動停止スイッチ箱を通して、本装置に接続すれば、それが作動した時、回線を一般電話機から本装置側に切り替え、119番に自動発信し、119番が応答すれば、あらかじめ録音されている（手動起動メッセージとは異なる）自火報起動メッセージを送出します。

(3) 呼出時間及び不応答再呼出

呼出時間は、最大約40秒であり、40秒を経過しても119番が応答しない場合は、いったん回線を開放し、再呼出を行います。応答するまでこれを繰り返します。

(4) メッセージ録音

音声合成IC

(5) メッセージ録音長

共通指定メッセージは、各消防機関毎に変更となる場合があります。

約1.5秒	約10秒	約1.5秒	約3秒
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 火事です。 火事です。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> こちらは〇〇町〇〇丁目 〇〇番地の〇〇旅館です。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 逆信 願います。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自動火災報知設備 が作動しました。 </div>
共通指定メッセージ	個別指定メッセージ	共通指定メッセージ	共通指定メッセージ
F-1	F-2	F-3	F-4

合わせて16秒以下

※F-1～F-4まで個別に録音する事になります。(2-7-3項 メッセージの録音の項参照)

(6) 信号音長

電子音にて送じます。

約3秒	約3秒
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ピッピッピッ ピッピッピッ </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ピンポーン ピンポーン </div>
手動の時	自火報と連動の時

※この電子音は、固定信号音です。
録音の必要はありません。

(7) メッセージ長及び内容

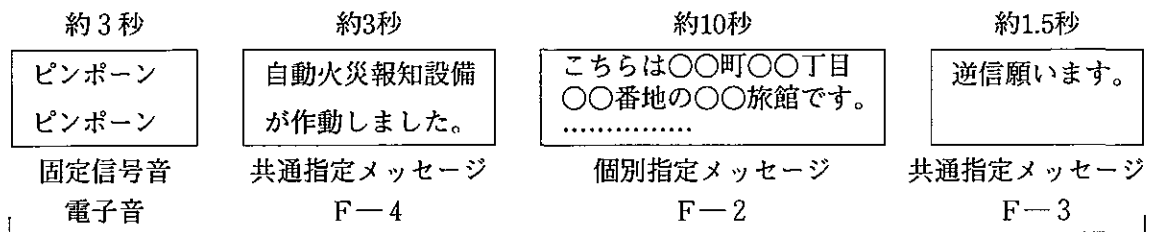
(a) 手動起動メッセージ

約3秒	約1.5秒	約10秒	約1.5秒
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ピッピッピッ ピッピッピッ </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 火事です。 火事です。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> こちらは〇〇町〇〇丁目 〇〇番地の〇〇旅館です。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 逆信願います。 </div>
固定信号音 電子音	共通指定メッセージ	個別指定メッセージ	共通指定メッセージ
	F-1	F-2	F-3

合わせて約16秒

※F-1～F-4に録音したメッセージが上記のとおり並べ換えられ送られる事になります。

(b) 自火報起動メッセージ（自火報と連動の場合）

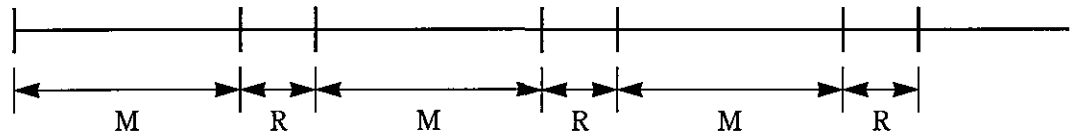


合わせて約17.5秒

※F-1～F-4に録音したメッセージが上記のとおり並べ換えられ送出される事になります。

(8) メッセージ送出回数

119番へのメッセージ送出は、上記(7)のメッセージを1区切りとして、119番からの呼び返し信号が到来するまで、次のようなサイクルで送出します。(最大10サイクル)



M：(7)のメッセージ (MAX17.5秒)

R：休止時間 (おおむね5秒)

(9) 呼び返し応答用電話機

1区切りのメッセージを送出し終わった時点で、119番からの呼び返し信号が到来すればメッセージの送出は停止します。同時に「内蔵呼び返し応答用電話機」、増設「呼び返し応答用電話機」のベルが呼び返し信号により鳴動し、送受話器をあげれば、通話ランプが点灯し119番と通話できます。

(10) 途中割込電話

メッセージ送出途中に「内蔵呼び返し応答用電話機」の送受話器を上げ、本体の通話ボタンを押すと、メッセージの送出は停止し、通話ランプが点灯し119番と通話できます。

(11) 話中再呼出

119番が話中の場合には、再呼出しします。

(12) 優先割込通報

本装置が通報動作を開始すれば、一般電話機が通話中であっても、その通話を強制切断し119番へ通報します。

(13) 手動起動メッセージ優先

上記(2)の自動火災報知設備の起動による自火報起動メッセージ送出途中において、上記(1)の手動起動動作が行われた場合には、即刻送出メッセージは、手動起動メッセージに切り替わります。

1-6-2 近隣宛先通報

(1) 119番への通報動作終了後、最大9宛先全てに対し、順次自動発信し、119番へ通報した同メッセージを送出します。(但し、F-3は送出されません)

(2) 呼出時間及び不応答再呼出

呼出時間は、最大約40秒であり、40秒を経過しても応答しない場合には、当該宛先に対する呼出しを停止し、次の宛先に対する発信通報動作に移行します。1宛先に対する不応答再呼出回数は、最大2回です。

- (3) メッセージ録音
音声合成IC
- (4) メッセージ長及び内容
119番通報と同じ。(但し、F-3は送出されません)
- (5) 話中再呼出
上記(2)の応答時と同様、次の宛先に対する発信通報動作に移行します。
1宛先に対する話中再呼出回数も応答再呼出時と同様最大2回です。

1-6-3 通報モニター

119番通報時、本装置のスピーカからダイヤル送出音、送出メッセージ等が聞こえます。

1-6-4 ランプ表示

- (1) 電源ランプ
AC100Vが入力されていると点灯します。停電時等バッテリー駆動の時は、点滅します。
- (2) 発報ランプ
火災通報ボタン、119番通報押ボタン等の起動にて点灯し、取消し操作にて点滅に変わり、復旧にて消灯します。
- (3) 通話ランプ
119番からの呼び返し信号の到来、または通話ボタン操作により、「内蔵呼び返し応答用電話機」が通話可能な状態になると点灯します。
- (4) 機器異常ランプ
CPU異常検出時点灯、復旧すれば消灯します。
- (5) 火災通報ボタンランプ
通常は、緑色点灯しています。本ボタン押下で、赤色点灯に変わります。

1-6-5 通報取消

本装置がいずれかの動作状態にあっても、通報取消ボタンを押せば、その時点で発信、通報動作を停止します。

119番と通話中に取消ボタンを押せば、119番からの逆信は、2-4結線工事の項に示すショート用ケーブルが実装されている場合は「内蔵呼返し応答用電話機」に逆信されます。

一般電話機を接続し使用する運用の場合には一般電話機に逆信されます。(一般電話機接続する場合はp13「設置工事の際のご注意」を参照下さい。)

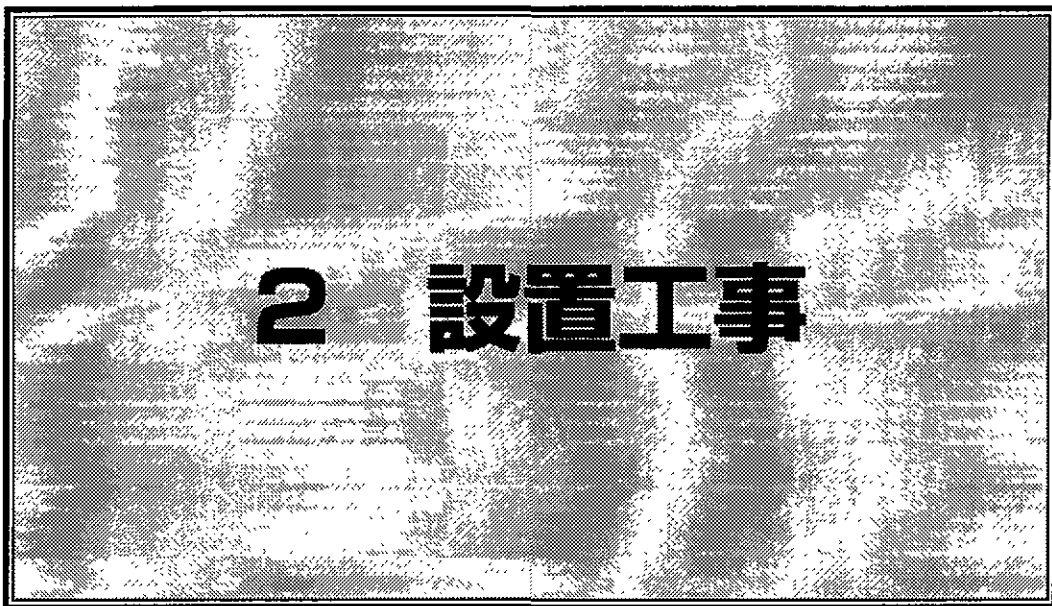
※通報取消ボタンを押しても火災通報ボタンランプが赤と緑の交互点滅を行うときは、火災通報ボタンまたは119番通報押ボタンが押されたままとなっています。復旧させて下さい。

1-6-6 操作忘れ防止機能

テスト動作終了時の操作忘れがあっても、上プタを閉じることにより、通常待機状態となります。

1-6-7 誤報の訂正

誤って起動させ通報を行った場合は、ただちに通話ボタンを押して、「内蔵呼び返し応答用電話機」で、119番へ訂正をして下さい。



2 設置工事

2-1 設置場所

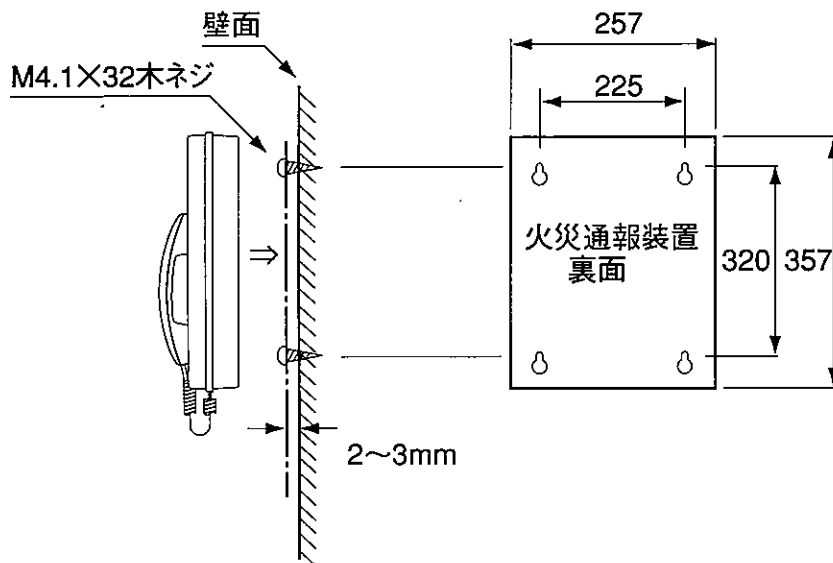
機器の取り付け場所は下記の点を考慮して決めて下さい。

- (1) 電話回線が引き込みやすい。
- (2) 塵が少なく、温度、湿度、振動等の影響を受けない。
- (3) 通行、仕事の妨げとならない。
- (4) 雨や部屋の清掃時、冠水の危険がない。
- (5) 油煙や湯煙の影響を受けない。
- (6) 直射日光を受けない。
- (7) 24時間給電可能な電源に近い。
- (8) 近隣に高周波ノイズの発生源がない。
- (9) フロント等、常時人のいる場所。

2-2 火災通報装置取り付け方法

壁面に木ネジでしっかり固定して下さい。

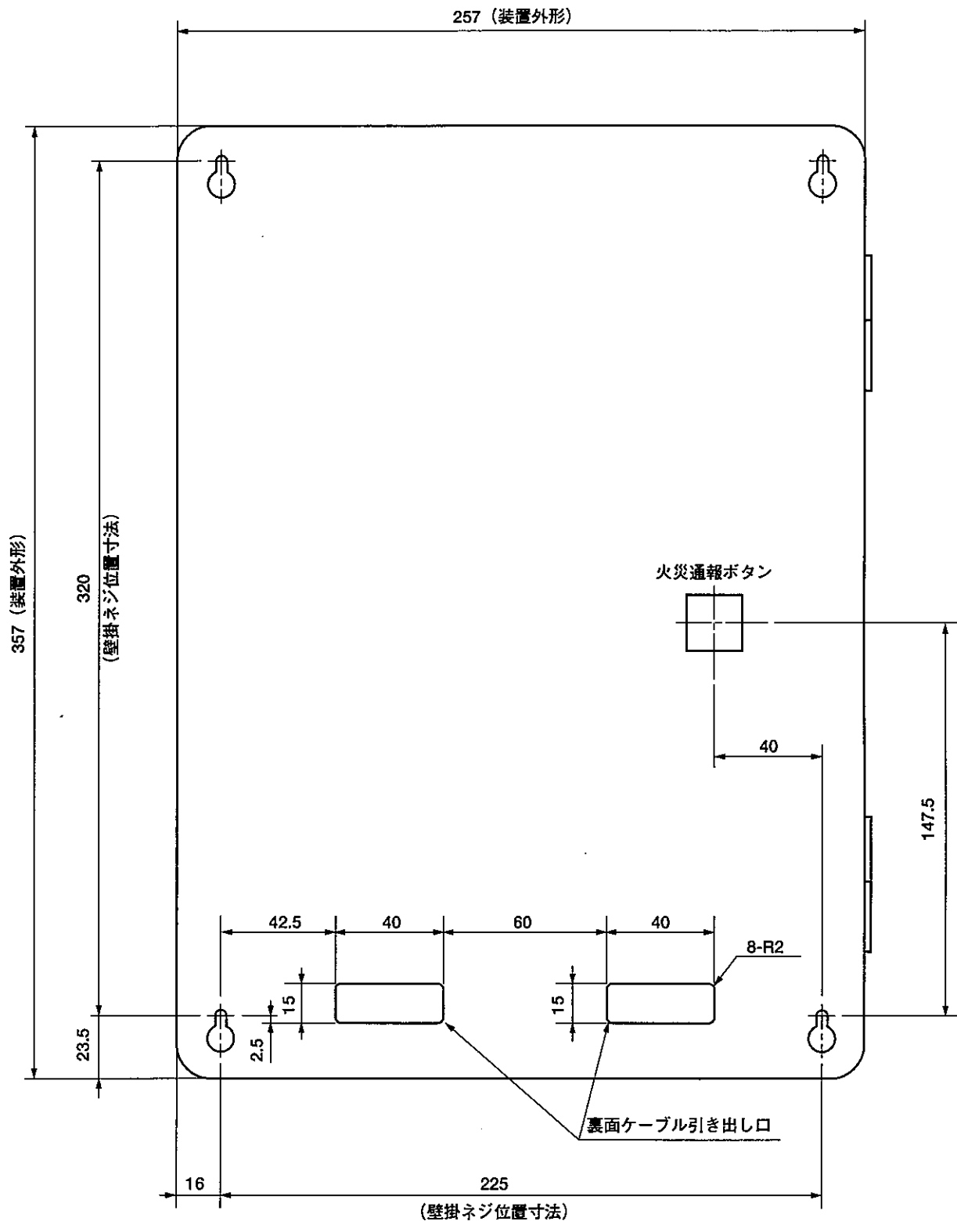
- (1) 重量は約3.5kgであり、壁面は、これに十分に耐えること。
- (2) 火災通報ボタンは、床面又は、地盤面から0.8～1.5mの位置に設けること。
- (3) 取付け寸法は、下記を参照して下さい。



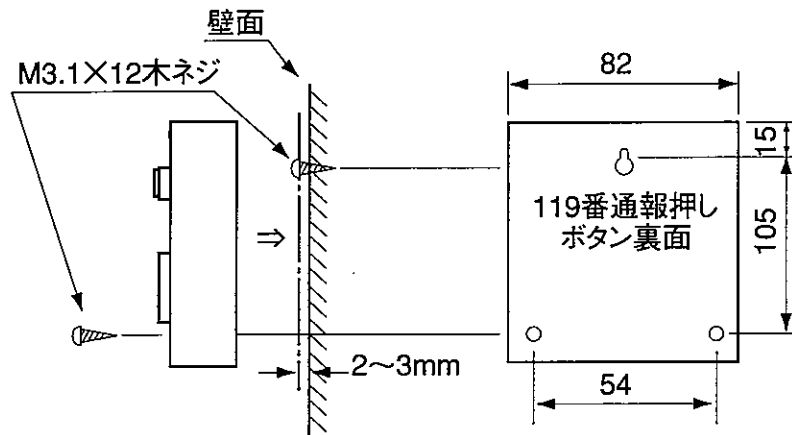
作業手順

1. 壁面に添付の木ネジ (M4.1×32) 4本を取付け、壁面より2～3mm浮かせてねじ込んで下さい。
2. 火災通報装置裏面の取付穴を木ネジに合わせて、引っ掛けるように止めて下さい。
3. 木ネジを十分に締めつけ、火災通報装置を壁面に固定して下さい。

<裏面ケーブル引き出し口寸法>



2-3 119番通報押ボタン取り付け方法

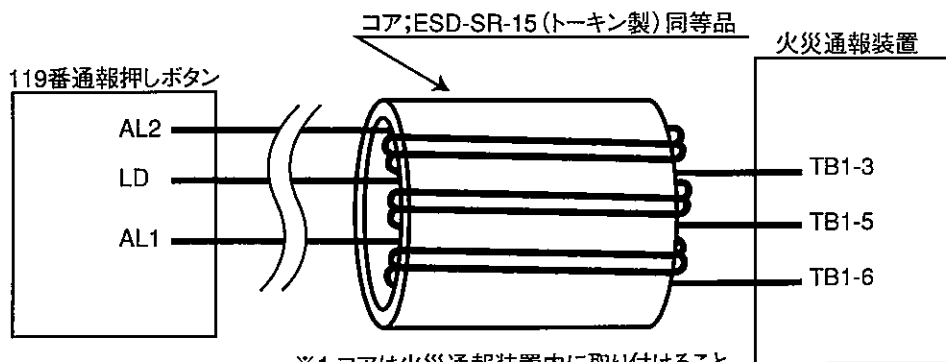


作業手順

1. 壁面に添付の木ネジ (M3.1×12) 1本を取付け、壁面より2～3mm浮かせて、ねじ込んで下さい。
2. 裏面取り付け穴を木ネジに合わせて、引っかけるように止めます。
3. 下側の木ネジ2本を固定して下さい。
4. 木ネジを3本とも十分に締め付け、カバーを取り付けて下さい。

<119番通報押ボタン配線時の注意>

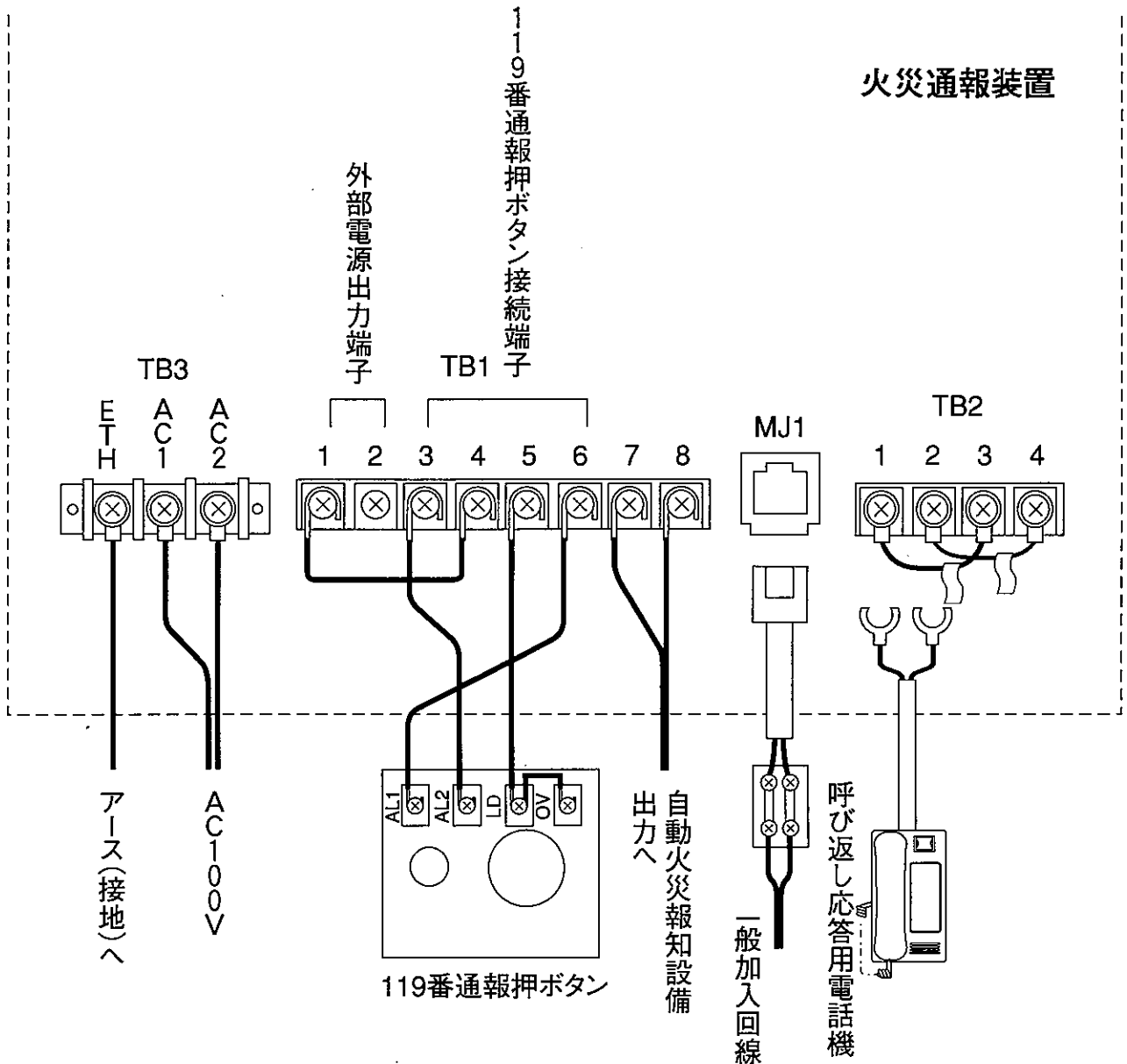
下図のように使用する配線コードをコアに2回巻いて配線して下さい。



- ※1 コアは火災通報装置内に取り付けること
- ※2 コアは別途お買い求め下さい

2-4 結線工事

結線は、下記を参照して下さい。



※119番通報押ボタンおよび呼び返し応答用電話機の複数接続（各最大2台）についてはブランチ接続となります。

本装置取り付け場所によって、いずれか適切なケーブル取入口より、工事ケーブルを取入れて下さい。

取入口より、取入れた工事ケーブルは、コード止めで結束しておいて下さい。

(付図-3 参照)

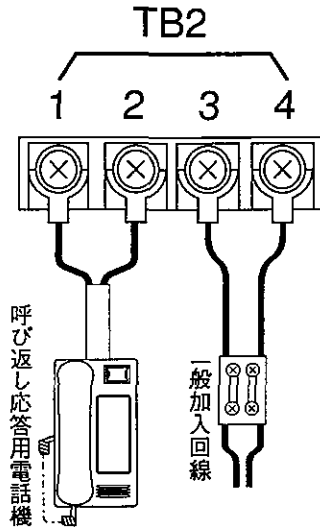
※対地アースについては、第D種対地アースを実施して下さい。

なお、装置の設置は、「消防機関に通報する火災通報装置の取扱いについて(通知):平成8年2月16日付、消防予第22号」に従い行って下さい。

設置工事の際のご注意

呼び返し応答電話機、および一般電話機接続用端子：TB2には、下図のようにショート用ケーブルが取り付けられています。

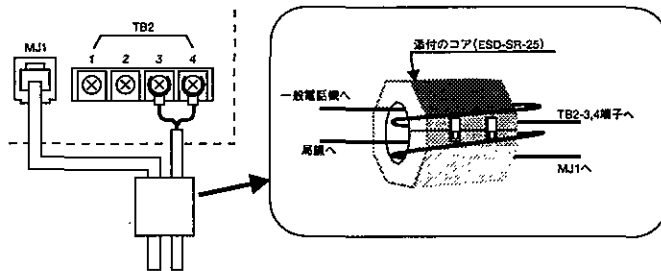
- ⚠ (1) 一般電話機を接続し使用する運用の場合は、ショート用ケーブルを取り外して使用して下さい。
取外さない場合には、一般通話呼出しの場合でも火災通報装置の呼出し音が鳴動してしまいます。



⚠ 【一般電話機をご使用の場合の留意事項】

- ・一般電話機を接続する場合は所轄消防署と打合せを行なって下さい。
 - ・一般電話機としての**FAX**又は**留守番電話**のご使用は行わないで下さい。
 - ・一般電話機は、火災通報装置の**近傍**に設置して下さい。
- この留意事項が守られない場合は、消防からの逆信が受けられない場合があります。

- ⚠ (2) 一般電話機を接続する場合は、下記のように局線および一般電話機への配線に**コア**をそれぞれ1回巻き付けてください。



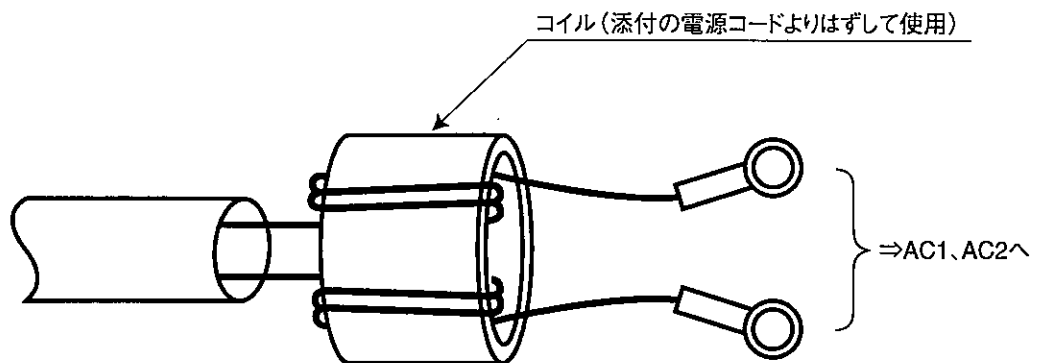
- ① 添付のコア (ESD-SR-25) を開きます。
- ② 局線と一般電話機への配線を本体になるべく近い位置で1回巻きます。
- ③ コアを閉じます。

- ⚠ **注意**
- ・一般電話機への配線と局線への配線に2P屋内線を使用している場合は、外皮を剥く必要は有りません。同時に巻いて下さい。
 - ・電源コードと局線は、同一配管内配線および結束は、絶対に行なわないこと。

端子表

端子No. (またはコネクタ)		名称	内容
MJ 1	1	L 1] 一般加入回線接続モジュラーコネクタ
	2	L 2	
TB 2	1] 呼び返し応答用電話機接続端子
	2		
	3] 一般電話機接続端子	
	4		
TB 1	1	GND] 外部電源出力端子
	2	+12V	
	3	+] 119番通報押ボタン入力
	4	-	
	5	IN] 119番通報押ボタン出力
	6	+12V	
	7	GND] 自動火災報知設備連動入力
	8	IN	

※添付の電源コードを使用しない場合は、下図の様に使用する電源コードをコアに2回巻いてから使用願います。



本装置の回線を接続するには以下の3通りがあります。

- (1) 中継端子盤直結の場合
- (2) モジュラーローゼット中継の場合
- (3) 壁内配線の場合

図例を示しますので、それによって工事を行ってください。また、回線接続に必要な添付品は下表に示します。

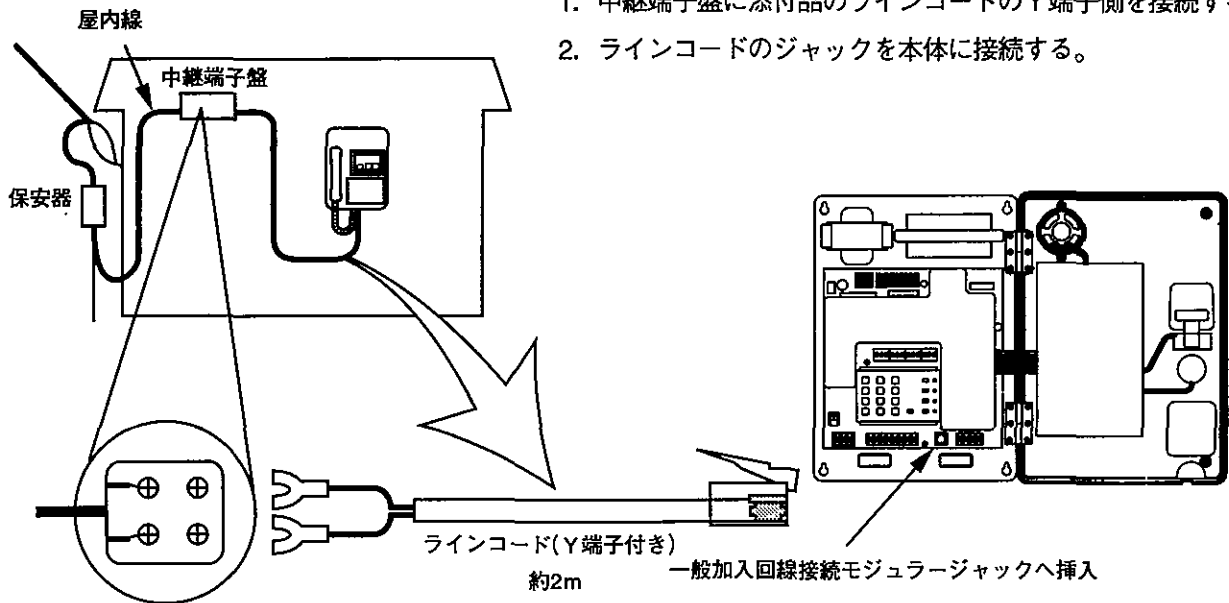
添付品一覧表

	名称	数量	記事
1	ラインコード (Y端子付き) 約2m	1	中継端子盤直結の場合
2	ラインコード (MJ-MJ) 約15cm	1	モジュラーローゼット中継、壁内配線の場合
3	小型モジュラーローゼット (WU-2)	1	壁内配線の場合
4	コア (ESD-SR-25)	1	局線および一般電話を接続する場合

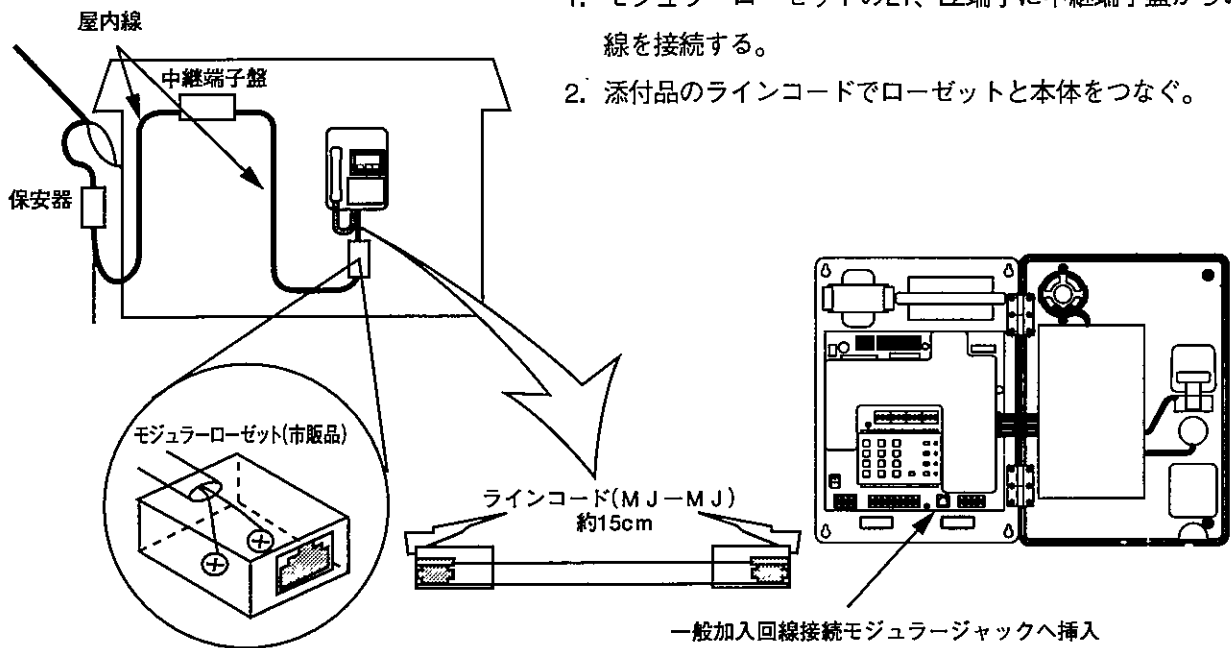
(1) 中継端子盤直結の場合

作業内容

1. 中継端子盤に添付品のラインコードのY端子側を接続する。
2. ラインコードのジャックを本体に接続する。



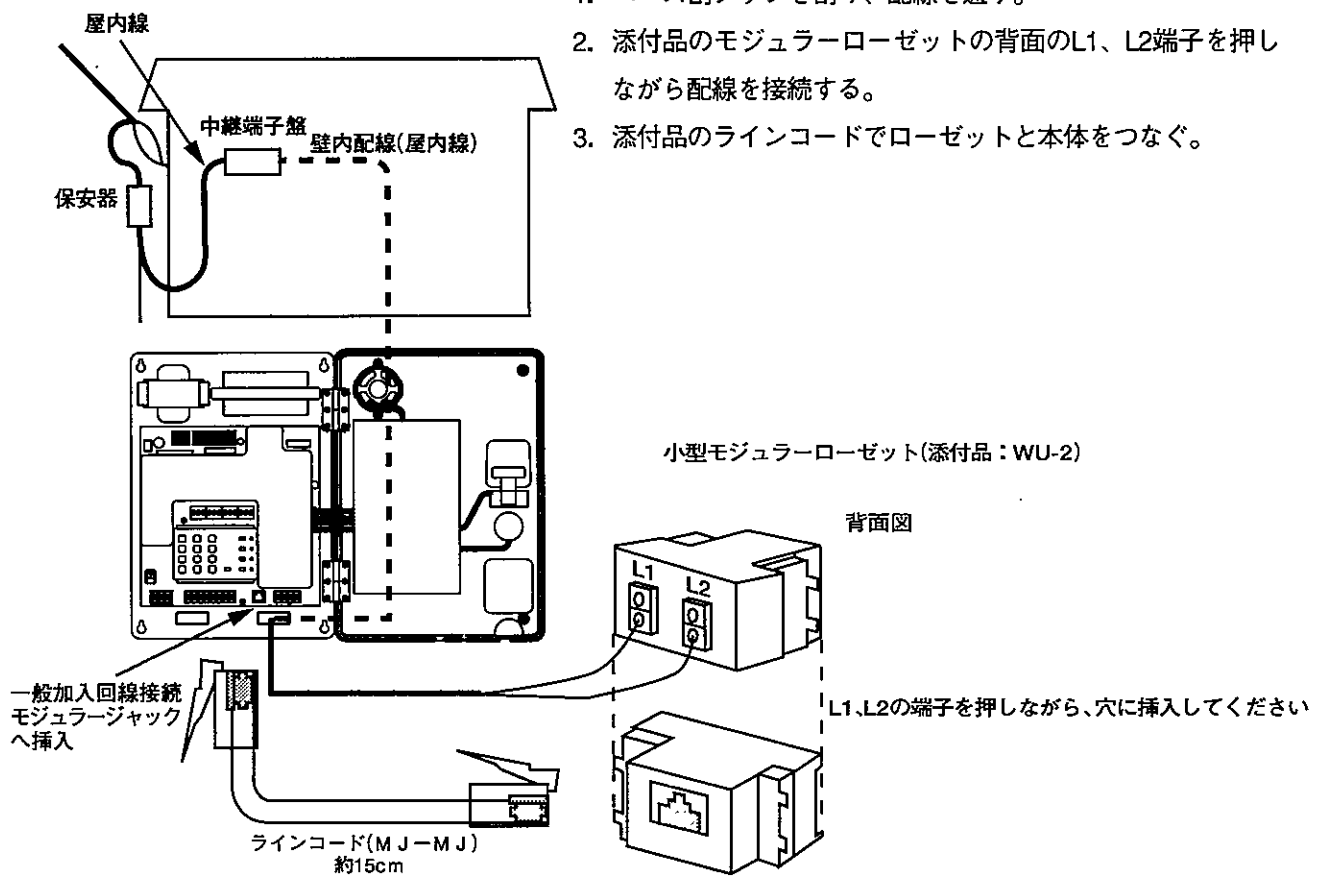
(2) モジュラーローゼット中継の場合



作業内容

1. モジュラーローゼットのL1、L2端子に中継端子盤からの配線を接続する。
2. 添付品のラインコードでローゼットと本体をつなぐ。

(3) 壁内配線の場合

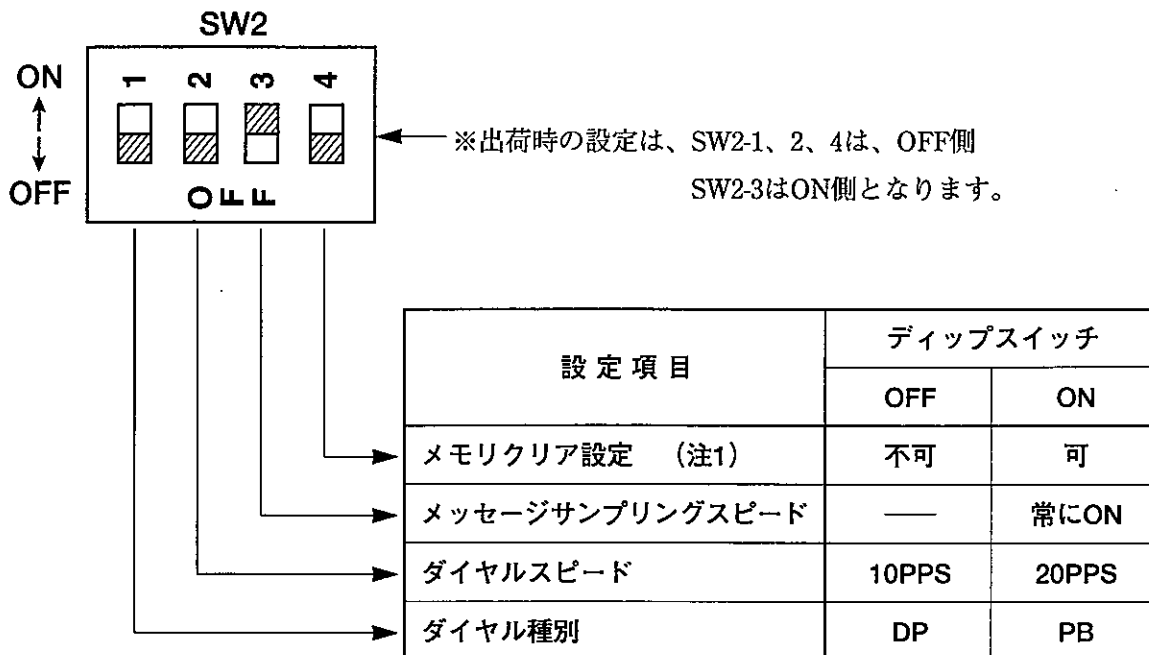


作業内容

1. ベース割チップを割り、配線を通す。
2. 添付品のモジュラーローゼットの背面のL1、L2端子を押しながら配線を接続する。
3. 添付品のラインコードでローゼットと本体をつなぐ。

2-5 各種モード設定

各種モード設定は、本装置内のディップスイッチ (SW2) を用いて行います。



(注1) 通報宛先番号、通報メッセージのオールクリア(2-7-1項参照のこと)を行う場合ONにして下さい。(通常はOFF側にしておくこと。)

(注2) メッセージサンプリングスピードの設定は、ありません。
常にON側にしておいて下さい。

2-6 装置の立ち上げ

配線を目視確認の上、本装置内のメイン基板 (MCU-A1) の電源スイッチ (SW1) を投入して下さい。

この時、電源ランプは、点灯します。

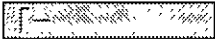

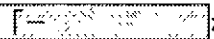
続いて、電池ケーブルをメイン基盤上の電池接続用コネクタ (CN5) に挿入して下さい。

2-7 通報宛先番号、通報メッセージの設定方法

119番は、すでに固定データとして保持されていますので設定の必要はありません。

設定時に使用するキー、ランプおよび表示器については、付図—4を参照のこと。

2-7-1 通報宛先番号、通報メッセージのオールクリア

- ① ディップスイッチSW 2—4をONします。
- ② 本装置のテストスイッチを押し、テストモードにします。
この時、テストランプが点灯します。
同時に表示器に、が表示されます。
- ③ ダイヤルキー0を押し、を押すことによりテスト0が実行されます。
表示器には、が表示されます。
- ④ 通報宛先番号の10宛先（テスト用含む）とメッセージがすべて消去され、オールクリア状態になります。
- ⑤ テストモードを終了するには、テストスイッチを押して下さい。
この時、テストランプ、表示器は消灯します。
- ⑥ ディップスイッチSW 2—4をOFFにする。

※必ず最後はOFFにすること。

2-7-2 通報ダイヤル番号設定（最大16桁）

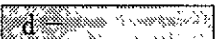



宛先番号と宛先ダイヤル番号を下記の手順に従って設定して下さい。

宛先番号と宛先ダイヤル番号との関係は、下記の表の通りです。

宛先の通報優先順位は、1→2→3→……7→8→9の順位で行われます。

宛先番号	宛先ダイヤル番号
0	テスト用ダイヤル番号
1	近隣第1通報先ダイヤル番号
2	" 2 "
3	" 3 "
4	" 4 "
5	" 5 "
6	" 6 "
7	" 7 "
8	" 8 "
9	" 9 "

※宛先番号0は、テスト時のみ使用します。テスト時、119番の代りとして通報させたい場合、電話番号を設定して下さい。

- ① 本装置の通報先設定スイッチを押し、通用先設定モードにします。
この時、通報先ランプが点滅します。
- ② 同時に表示器に、が表示されます。
- ③ 宛先番号1の入力としてダイヤルキーにて1を入力します。
宛先番号の設定終了は、を押します。表示器は消灯します。
- ④ 次に宛先ダイヤル番号、例えば1 2 3を入力する（0～9の数字）と表示器に表示されます。

- ⑤ 宛先ダイヤル番号の設定終了は、**[H]**を押します。表示器は、②状態となり、次宛先以降の入力が可能となります。
- ⑥ 通報先設定モードを終了するには、通報先設定スイッチを押して下さい。通報先ランプ、表示器は消灯します。
- ⑦ 宛先ダイヤル番号の設定が終了したら、次の操作で設定したダイヤル番号を確認して下さい。
- ⑧ 通報先確認スイッチを押し、通報先確認モードにします。この時、通報先ランプが点灯します。
- ⑨ 同時に表示器に、**[d-1]**が表示されます。
- ⑩ 宛先番号1の確認としてダイヤルキーにて**[1]**を入力する。**[d-1]**
- ⑪ 次に**[H]**を押すと、前例の場合、**[123]**が表示されます。設定が12桁以上の場合、最初の12桁が表示器に表示されます。
- ⑫ さらに**[H]**を押すと、残りの4桁が表示されます。
- ⑬ 次宛先以降を確認する場合は**[X]**を押し、⑨～⑫の動作を繰り返して下さい。
- ⑭ 通報先確認モードを終了するには、通報先確認スイッチを押して下さい。通報先ランプ、表示器は消灯します。

※宛先番号0は、通報テストの一般回線を用いる場合に必要となりますので、あらかじめ設定しておいて下さい。宛先ダイヤル番号の消去は、④のダイヤル入力を行わないことにより、③～⑤の設定において、実行されます。

2-7-3 メッセージの録音と再生

メッセージは、F-1～F-4までをフレーズ毎に録音、再生ができます。

通報時送出される手動起動メッセージは、F-1、F-2、F-3の順、自火報起動メッセージは、F-4、F-2、F-3の順となりますので、各フレーズには、下記の内容を録音して下さい。

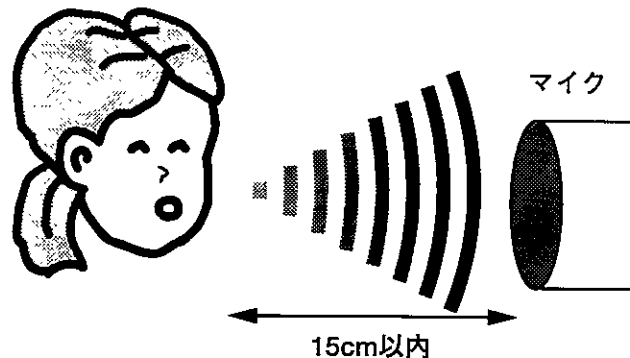
フレーズ1 (F-1) 火事です。火事です。	約1.5秒	} 最大16秒
フレーズ2 (F-2) こちら〇〇丁目、〇〇番地、〇〇ホテルです。	約10秒	
フレーズ3 (F-3) 逆信願います。	約1.5秒	
フレーズ4 (F-4) 自動火災報知設備が作動しました。	約3秒	

- ① 本装置のメッセージ設定スイッチを押し、メッセージ録音モードにします。この時、メッセージランプが点滅します。同時に表示器に、**[F-1]**が表示されます。
- ② フレーズ1の録音は、ダイヤルキーにて**[1]**を押し、**[H]**を押すことにより、録音を開始します。尚、録音中は、表示器の“-”が点滅します。**[F-1]**
↑
“-”点滅
- ③ 本装置内のマイクに向かいメッセージを吹き込んで下さい。
- ④ **[H]**を押すことにより、録音は終了します。この時、表示器の点滅は停止し、次のメッセージ録音待機状態となり①の表示状態となります。
- ⑤ 次のフレーズを録音する時は、フレーズに該当する番号2～4を押しして上記と同様②～④を繰り返します。

- ◎ 一通り設定してから、再度録音の準備をし、メッセージを入れて下さい。設定時間の間にうまく録音できるまで何回でも録音、確認、再生を繰り返して下さい。良好なら次のフレーズを入れて下さい。

<通報メッセージ録音時の注意事項>

- ・通報メッセージ録音時は、マイクから15cm以内で、はっきりと大きな声で録音して下さい。
- ・できるだけ静かな所で録音して下さい。外周音の大きな所、空調設備の風が当たる所等で録音すると、ノイズレベルが大きくなります。



2-8 動作試験

動作試験には、単体テスト、通報テストがあります。各試験開始前に本装置の各スイッチ及びランプの状態が下記の通りであることを確認して下さい。

電源ランプ	(前面)	; 電源スイッチONで点灯
発報ランプ	(前面)	; 消灯
通話ランプ	(前面)	; 消灯
機器異常ランプ	(前面)	; 消灯
火災通報ボタンランプ	(前面)	; 電源スイッチONで緑色点灯、本ボタン押下で赤色点灯
電源スイッチ	(装置内)	; ON

2-8-1 単体テスト

本テストは実回線を接続しないで試験します。実際に呼出すことはありません。又、上ブタを開いた状態で試験を行います。

単体テストには、ダイヤル・メッセージモニター試験、呼び返し応答用電話機試験があります。

ダイヤル・メッセージモニター試験は、内部電源から電話機回路に電流を供給し、ダイヤル音の確認、通報メッセージ等の確認を行います。

呼び返し応答用電話機試験は内部電源から「内蔵呼び返し応答用電話機」、増設「呼び返し応答用電話機」へ電流を供給して各電話機の側音を確認します。

(1) ダイヤル・メッセージモニター試験

- ① 本装置内のテストスイッチを押し、テストモードにします。

この時、テストランプが点灯します。

同時に表示器に、が表示されます。

- ② ダイヤルキーにて「1」を押し、「H」を押すことにより、本テストが開始されます。
表示器には、「1」が表示されます。
- ③ 火災通報ボタンを押すことにより、「119」のダイヤル動作が開始され、スピーカからダイヤル音が聞こえます。
- ④ ダイヤル終了後、手動起動メッセージがスピーカから聞こえます。
- ⑤ ③で自火報連動入力に信号を入れると、ダイヤル動作を行い、自火報起動メッセージがスピーカから流れます。
- ⑥ 次に火災通報ボタン、自火報連動入力を復旧させて下さい。
- ⑦ 「*」を押すと、本テストは終了します。
表示器は、「1」に戻ります。
- ⑧ テストモードを終了するには、テストスイッチを押して下さい。
この時、テストランプ、表示器は消灯します。

(2) 呼び返し応答用電話機試験

- ① 本装置内のテストスイッチを押し、テストモードにします。
この時、テストランプが点灯します。
同時に表示器に、「2」が表示されます。
- ② 「2」を押し、「H」を押すことにより、本テストが開始されます。
表示器には、「2」が表示されます。
- ③ 通話ボタンを押し、「内蔵呼び返し応答用電話機」、増設「呼び返し応答用電話機」をオフフックすると、送話器からの声が受話器から聞こえること（測音）を確認します。
- ④ 次に「内蔵呼び返し応答用電話機」、増設「呼び返し応答用電話機」をオンフックして下さい。
- ⑤ 「*」を押すと、本テストは終了します。
表示器は、「1」に戻ります。
- ⑥ テストモードを終了するには、テストスイッチを押して下さい。
この時、テストランプ、表示器は消灯します。

2-8-2 通報テスト

通報テストには、本装置を試験装置に接続して行う方法と、一般回線に接続して行う方法があります。

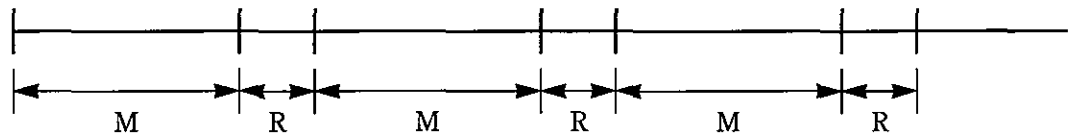
<試験装置を用いる場合>

本装置の一般加入回線接続モジュラーコネクタ（MJ1）に試験装置を接続し、上ボタンを閉じ、ネジを締めて下さい。

(1) 手動起動試験

- ① 本装置の火災通報ボタン（または119番通報押ボタン）を押して下さい。
- ② 火災通報ボタンランプが緑色点灯から赤色点灯へ変わり（および119番通報押ボタンランプが赤色点灯）、発報ランプが点灯します。
- ③ スピーカからダイヤルトーン、ダイヤル送出音、呼出音が順に聞こえます。
- ④ ここで試験装置側が応答すると、本装置は試験装置に対し手動起動メッセージを送出します。同時にスピーカから送出しているメッセージが聞こえます。

- ⑤ メッセージ送出は、下図のサイクルで行います。



M；手動起動メッセージ

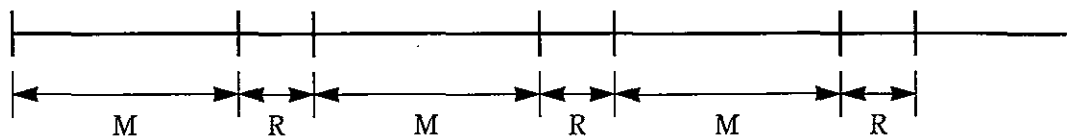
R；休止時間（おおむね5秒）

※メッセージは少なくとも3サイクルの確認をして下さい。

- ⑥ 上記⑤のメッセージ送出状態は、試験装置側からの呼び返し信号が送出されるまで継続します。呼び返し信号を受信すると「内蔵呼び返し応答用電話機」（および増設「呼び返し応答用電話機」）のベルが鳴り、本装置の通話ランプが点灯しますので送受話器を用いて通話を行います。
- ⑦ 通話を確認後、送受話器をオンフックし、試験装置への通報を終了します。
- ⑧ 約40秒後に、本装置は自動的に近隣通報を行います。
- ⑨ 一連の近隣通報が終了したら、火災通報ボタン（または119番通報押しボタン）を復旧させ通報取消ボタンを押して下さい。
火災通報ボタンランプが、赤色点灯から緑色点灯に変わり（および119番通報押しボタンランプが消灯）、発報ランプが消灯し、待機状態に戻ります。
※通報取消ボタンを押しただけで、火災通報ボタン（または119番通報押しボタン）を復旧させない場合、発報ランプは点滅状態となります。必ず火災通報ボタン（または119番通報押しボタン）を復旧させて下さい。
- ⑩ 試験終了に当たって、本装置の各ランプが待機状態となっていることを再確認して下さい。

(2) 自火報連動起動試験

- ① 自火報連動入力を起動させて下さい。
- ② 火災通報ボタンランプが緑色点灯から赤色点灯へ変わり（および119番通報押しボタンランプが赤色点灯）、発報ランプが点灯します。
- ③ スピーカからダイヤルトーン、ダイヤル送出音、呼出音が順に聞こえます。
- ④ ここで試験装置側が応答すると、本装置は試験装置に対し自火報起動メッセージを送出します。同時にスピーカから送出しているメッセージが聞こえます。
- ⑤ メッセージ送出は下図のサイクルで行います。



M；自火報起動メッセージ

R；休止時間（おおむね5秒）

※メッセージは少なくとも3サイクルの確認をして下さい。

- ⑥ 上記⑤のメッセージ送出状態は、試験装置側からの呼び返し信号が送出されるまで継続します。呼び返し信号を受信すると「内蔵呼び返し応答用電話機」（および増設「呼び返し応答用電話機」）のベルが鳴り、本装置の通話ランプが点灯しますので送受話器を用いて通話を行います。
- ⑦ 通話を確認後、送受話器をオンフックし、試験装置への通報を終了します。

- ⑧ 約40秒後に、本装置は自動的に近隣通報を行います。
- ⑨ 一連の近隣通報が終了したら、自火報連動入力を復旧させ通報取消ボタンを押して下さい。

火災通報ボタンランプが、赤色点灯から緑色点灯に変わり（および119番通報押ボタンランプが消灯）、発報ランプが消灯し、待機状態に戻ります。

※通報取消ボタンを押しただけで、自火報連動入力を復旧させない場合、発報ランプは点滅状態となりますので必ず復旧させて下さい。

- ⑩ 試験終了に当たって本装置の各ランプが待機状態となっていることを再確認して下さい。

(3) 手動起動メッセージ優先試験

- ① 自火報連動入力を起動させ、自火報起動メッセージ送出状態とする。
- ② この状態で、本装置の火災通報ボタンを押すと、メッセージが手動起動メッセージに切り替わる。
- ③ メッセージが切り替わったことを確認したら、本装置を待機状態にして下さい。

(4) 途中割込通話試験

- ① 火災通報ボタンを押し、手動起動メッセージ送出状態とする。
- ② 「内蔵呼び返し応答用電話機」をオフフックし、通話ボタンを押し、通話が行えることを確認します。
この時、通話ランプは点灯します。
- ③ 確認したら、本装置を待機状態にして下さい。

(5) 話中再呼出試験

- ① 試験装置を話中状態にします。
- ② この状態で、本装置の火災通報ボタンを押します。
- ③ 本装置は通報動作を行いますが、試験装置側が話中のため、スピーカから話中音が聞こえ、回線を開放します。以降この動作を繰り返します。
※この動作を3回以上確認して下さい。
- ④ 確認したら、本装置を待機状態にして下さい。

(6) 不応答再呼出試験

- ① 火災通報ボタンを押します。
- ② 本装置は通報動作を行いますが、試験装置側にて応答を行わないと、スピーカから呼出音が聞こえ、約40秒間後に回線を開放します。以降この動作を繰り返します。
※この動作を2回以上確認して下さい。
- ③ 確認したら、本装置を待機状態にして下さい。

(7) 強制切替動作試験（使用中回線の捕捉動作）

強制切替動作には、通話時と着信時の2つの状態があります。

(7) - 1 通話時の強制切替動作

- ① 火災通報装置の後段に取付けた一般電話機で、回線を捕捉しダイヤル発信を行い、通話状態にします。
- ② 一般電話機が通話中の状態で、火災通報装置の火災通報ボタンを押します。
- ③ 火災通報装置は、回線を火災通報装置側に切替えた後（一般電話機は通話を切断されず）、回線を強制的に開放します。
- ④ 火災通報装置は、再度回線を捕捉し手動起動試験と同等の動作を行います。

- ⑤ 確認したら、本装置を待機状態にして下さい。
- (7) - 2 着信時の強制切替動作
 - ① 試験装置を用い、火災通報装置の後段に取付けた一般電話機を着信状態（一般電話機が着信鳴動している状態）にします。
 - ② この状態で、火災通報装置の火災通報ボタンを押します。
 - ③ 火災通報装置は、一般電話機側に接続されている回線を火災通報装置側に切替え、一旦捕捉した後、強制的に開放します。
 - ④ 火災通報装置は、再度回線を捕捉し手動起動試験と同等の動作を行います。
 - ⑤ 確認したら、本装置を待機状態にして下さい。





<一般回線を用いる場合>

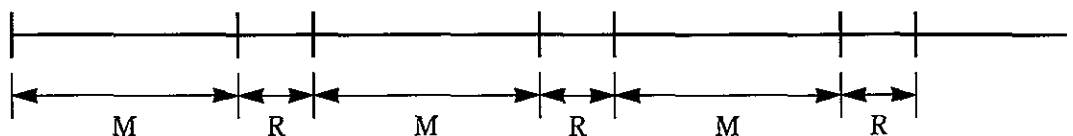
本テストに先立ち、2-7-2項に従い、宛先番号0に宛先ダイヤル番号を設定して下さい。

次に、本装置の一般加入回線接続モジュラーコネクタ (MJ1) に一般回線を接続し、必ず上ブタを開いた状態で行います。

※本テストを行う場合は、必ず通報先、及び近隣通報先に対してあらかじめその旨を連絡しておいて下さい。

(1) 手動起動試験

- ① 本装置のテストスイッチを押し、テストモードにします。
この時、テストランプが点灯します。
同時に表示器に、が表示されます。
- ② を押し、を押しことにより本テストが開始されます。
表示器には、が表示されます。
- ③ 本装置の火災通報ボタン（または119番通報押ボタン）を押して下さい。
- ④ 火災通報ボタンランプが緑色点灯から赤色点灯へ変わり（および119番通報押ボタンランプが赤色点灯）、発報ランプが点灯します。
- ⑤ スピーカからダイヤルトーン、ダイヤル送出音、呼出音が順に聞こえます。
- ⑥ ここで通報先が応答すると、本装置は通報先に対し手動起動メッセージを送出します。
同時にスピーカから送出しているメッセージが聞こえます。
- ⑦ メッセージ送出は、下図のサイクルで行います。



M ; 手動起動メッセージ

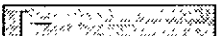


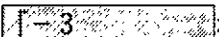
R ; 休止時間（おおむね5秒）

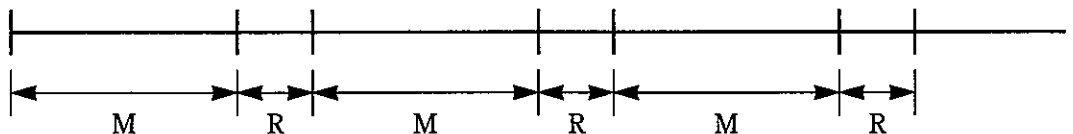
※メッセージは少なくとも3サイクルの確認をして下さい。

- ⑧ 上記⑦のメッセージ送出状態で、「内蔵呼び返し応答用電話機」（および増設「呼び返し応答用電話機」）をオフフックし、通話ボタンを押すことにより通報先との通話を行います。
- ⑨ 通話を確認後、通報先が回線を開放する（電話を切る）ことにより、通報を終了します。
- ⑩ 約40秒後に、本装置は自動的に近隣通報を行います。

- ⑪ 一連の近隣通報が終了したら、火災通報ボタン（または119番通報押しボタン）を復旧させ通報取消ボタンを押して下さい。
- 火災通報ボタンランプが、赤色点灯から緑色点灯に変わり（および119番通報押しボタンランプが消灯）、発報ランプが消灯し、待機状態に戻ります。
- ※通報取消ボタンを押しただけで、火災通報ボタン（または119番通報押しボタン）を復旧させない場合、発報ランプは点滅状態となります。必ず火災通報ボタン（または119番通報押しボタン）を復旧させて下さい。
- ⑫ 本装置の各ランプが待機状態となっていることを再確認して下さい。
- ⑬ 本テストを終了するには、テストスイッチを押して下さい。
- この時、テストランプ、表示器は消灯します。

(2) 自火報連動起動試験

- ① 本装置のテストスイッチを押し、テストモードにします。
- この時、テストランプが点灯します。
- 同時に表示器に、が表示されます。
- ② を押し、を押すことにより本テストが開始されます。
- 表示器には、が表示されます。
- ③ 自火報連動入力を起動させて下さい。
- ④ 火災通報ボタンランプが緑色点灯から赤色点灯へ変わり（および119番通報押しボタンランプが赤色点灯）、発報ランプが点灯します。
- ⑤ スピーカからダイヤルトーン、ダイヤル送出音、呼出音が順に聞こえます。
- ⑥ ここで通報先が応答すると、本装置は通報先に対し自火報起動メッセージを送出します。同時にスピーカーから送出しているメッセージが聞こえます。
- ⑦ メッセージ送出は、下図のサイクルで行います。



M；自火報起動メッセージ





R；休止時間（おおむね5秒）

※メッセージは少なくとも3サイクルの確認をして下さい。





- ⑧ 上記⑦のメッセージ送出状態で、「内蔵呼び返し応答用電話機」（および増設「呼び返し応答用電話機」）をオフフックし、通話ボタンを押すことにより通報先との通話を行います。
- ⑨ 通話を確認後、通報先が回線を開放する（電話を切る）ことにより、通報を終了します。
- ⑩ 約40秒後に、本装置は自動的に近隣通報を行います。
- ⑪ 一連の近隣通報が終了したら、自火報連動を復旧させ通報取消ボタンを押して下さい。
- 火災通報ボタンランプが、赤色点灯から緑色点灯に変わり（および119番通報押しボタンランプが消灯）、発報ランプが消灯し、待機状態に戻ります。
- ※通報取消ボタンを押しただけで、自火報連動入力を復旧させない場合、発報ランプは点滅状態となりますので必ず復旧させて下さい。
- ⑫ 本装置の各ランプが待機状態となっていることを再確認して下さい。

- ⑬ 本テストを終了するには、テストスイッチを押して下さい。
この時、テストランプ、表示器は消灯します。

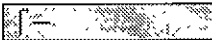


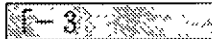
(3) 手動起動メッセージ優先試験

- ① 本装置のテストスイッチを押し、テストモードにします。
この時、テストランプが点灯します。
同時に表示器に、が表示されます。
- ② を押し、を押すことにより本テストが開始されます。
表示器には、が表示されます。
- ③ 自火報連動入力を起動させ、自火報起動メッセージ送出状態とする。
- ④ この状態で、本装置の火災通報ボタンを押すと、メッセージが手動起動メッセージに切り替わる。
- ⑤ メッセージが切り替わったことを確認したら、本装置を待機状態にして下さい。
- ⑥ 本テストを終了するには、テストスイッチを押して下さい。
この時、テストランプ、表示器は消灯します。





(4) 途中割込通話試験

- ① 本装置のテストスイッチを押し、テストモードにします。
この時、テストランプが点灯します。
同時に表示器に、が表示されます。
- ② を押し、を押すことにより本テストが開始されます。
表示器には、が表示されます。
- ③ 火災通報ボタンを押し、手動起動メッセージ送出状態とする。④ 「内蔵呼び返し応答用電話機」をオフフックし、通話ボタンを押し、通話が行えることを確認します。
この時、通話ランプは点灯します。
- ⑤ 確認したら、本装置を待機状態にして下さい。
- ⑥ 本テストを終了するには、テストスイッチを押して下さい。
この時、テストランプ、表示器は消灯します。

(5) 話中再呼出試験

- ① 本装置のテストスイッチを押し、テストモードにします。
この時、テストランプが点灯します。
同時に表示器に、が表示されます。
- ② を押し、を押すことにより本テストが開始されます。
表示器には、が表示されます。
- ③ 通報先を話中状態にします。
- ④ この状態で、本装置の火災通報ボタンを押します。
- ⑤ 本装置は通報動作を行いますが、通報先が話中のため、スピーカから話中音が聞こえ、回線を開放します。以降この動作を繰り返します。
※この動作を3回以上確認して下さい。
- ⑥ 確認したら、本装置を待機状態にして下さい。
- ⑦ 本テストを終了するには、テストスイッチを押して下さい。
この時、テストランプ、表示器は消灯します。

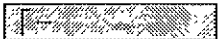


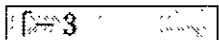
(6) 不応答再呼出試験

- ① 本装置のテストスイッチを押し、テストモードにします。
この時、テストランプが点灯します。
同時に表示器に、が表示されます。
- ② を押し、を押すことにより本テストが開始されます。
表示器には、が表示されます。
- ③ 火災通報ボタンを押します。
- ④ 本装置は通報動作を行います。通報先にて応答を行わないと、スピーカから呼出音が聞こえ、約40秒後に回線を開放します。以降この動作を繰り返します。
※この動作を2回以上確認して下さい。
- ⑤ 確認したら、本装置を待機状態にして下さい。
- ⑥ 本テストを終了するには、テストスイッチを押して下さい。
この時、テストランプ、表示器は消灯します。





(7) 強制切替動作試験（使用中回線の捕捉動作）

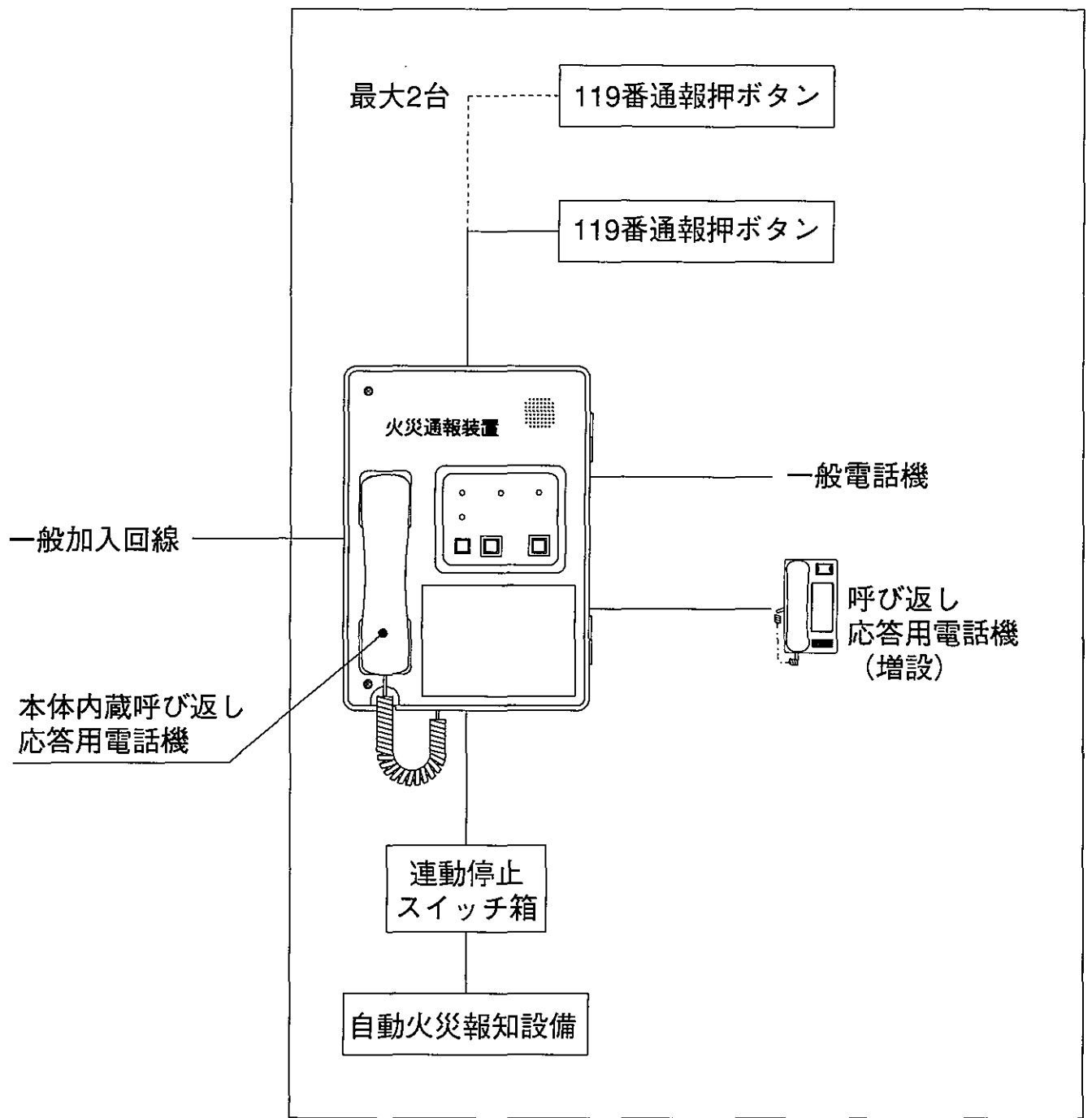
強制切替動作には、通話時と着信時の2つの状態があります。

(7) - 1 通話時の強制切替動作

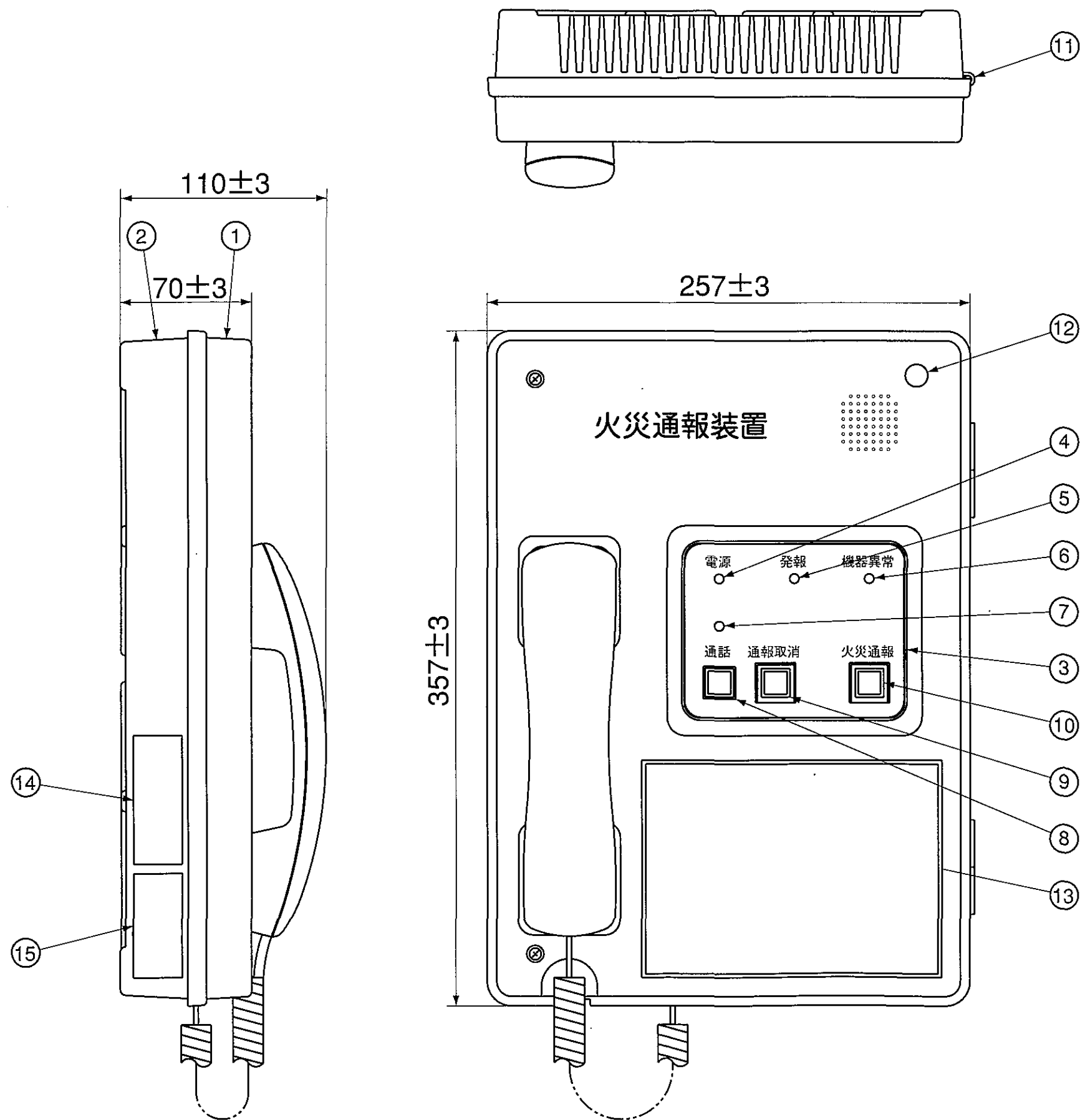
- ① 本装置のテストスイッチを押し、テストモードにします。
この時、テストランプが点灯します。
同時に表示器に、が表示されます。
- ② を押し、を押すことにより本テストが開始されます。
表示器には、が表示されます。
- ③ 火災通報装置の後段に取付けた一般電話機で、回線を捕捉しダイヤル発信を行い、通話状態にします。
- ④ 一般電話機が通話中の状態で、火災通報装置の火災通報ボタンを押します。
- ⑤ 火災通報装置は、回線を火災通報装置側に切替えた後（一般電話機は通話を切断されず）、回線を強制的に開放します。
- ⑥ 火災通報装置は、再度回線を捕捉し手動起動試験と同等の動作を行います。
- ⑦ 確認したら、本装置を待機状態にして下さい。

(7) - 2 着信時の強制切替動作

- ① 本装置のテストスイッチを押し、テストモードにします。
この時、テストランプが点灯します。
同時に表示器に、が表示されます。
- ② を押し、を押すことにより本テストが開始されます。
表示器には、が表示されます。
- ③ 試験装置を用い、火災通報装置の後段に取付けた一般電話機を着信状態（一般電話機が着信鳴動している状態）にします。
- ④ この状態で、火災通報装置の火災通報ボタンを押します。
- ⑤ 火災通報装置は、一般電話機側に接続されている回線を火災通報装置側に切り替え、一旦捕捉した後、強制的に開放します。
- ⑥ 火災通報装置は、再度回線を捕捉し手動起動試験と同等の動作を行います。
- ⑦ 確認したら、本装置を待機状態にして下さい。

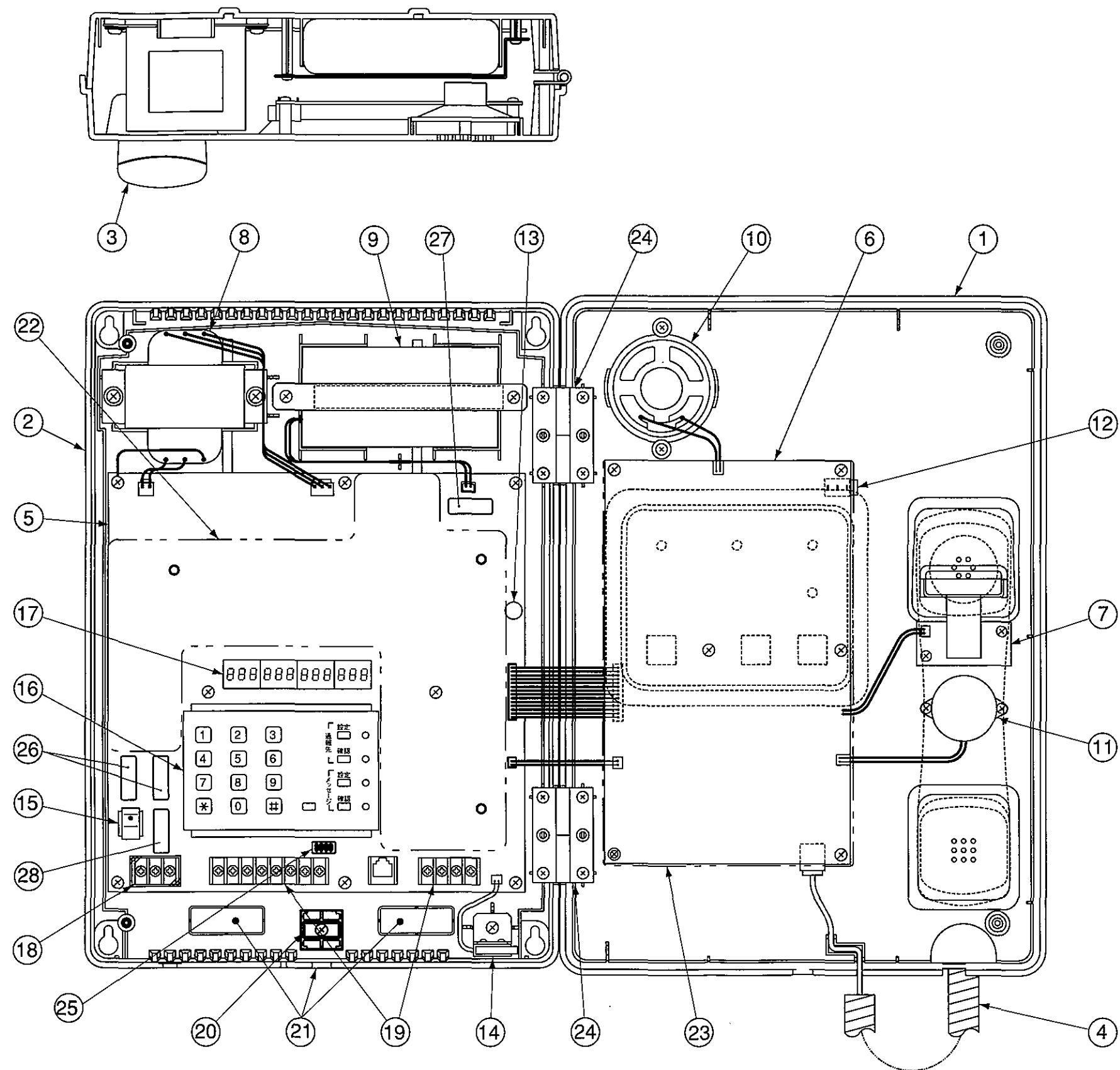


付図-1 火災通報装置 システム構成図



番号	名称	数量	記事
1	カバー	1	
2	ベース	1	
3	化粧パネル	1	
4	電源ランプ	1	緑
5	発報ランプ	1	赤
6	機器異常ランプ	1	赤
7	通話ランプ	1	赤
8	通話ボタン	1	
9	通報取消ボタン	1	安全カバー付き
10	火災通報ボタン	1	安全カバー付き
11	蝶番	2	
12	安全センター認定ラベル	1	
13	操作説明ラベル	1	
14	品名ラベル	1	
15	型式ラベル	1	
	電源コード	1	添付品
	ヒューズ 3.15A	2	添付品
	ヒューズ 2A	1	添付品
	ヒューズ 0.1A	1	添付品

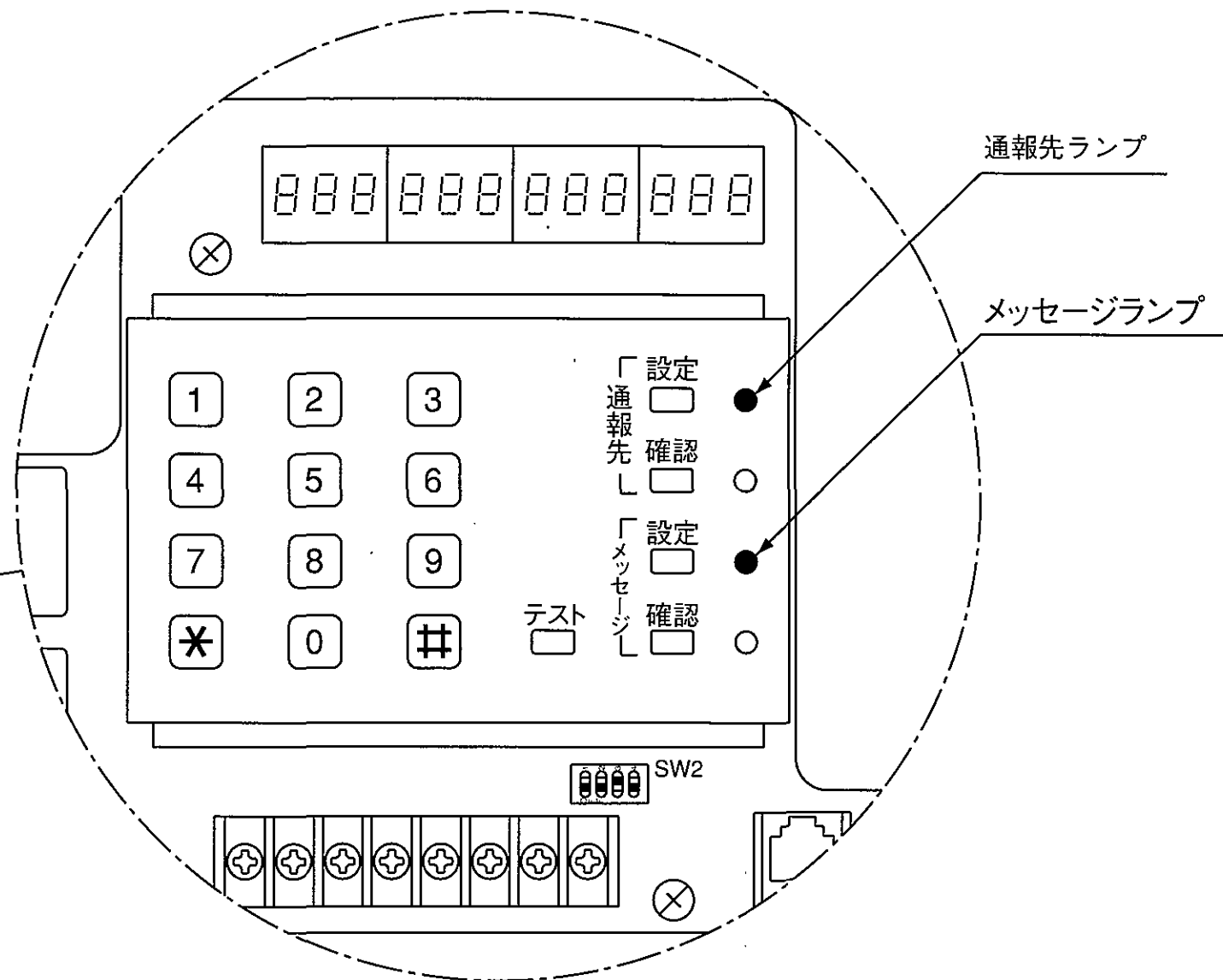
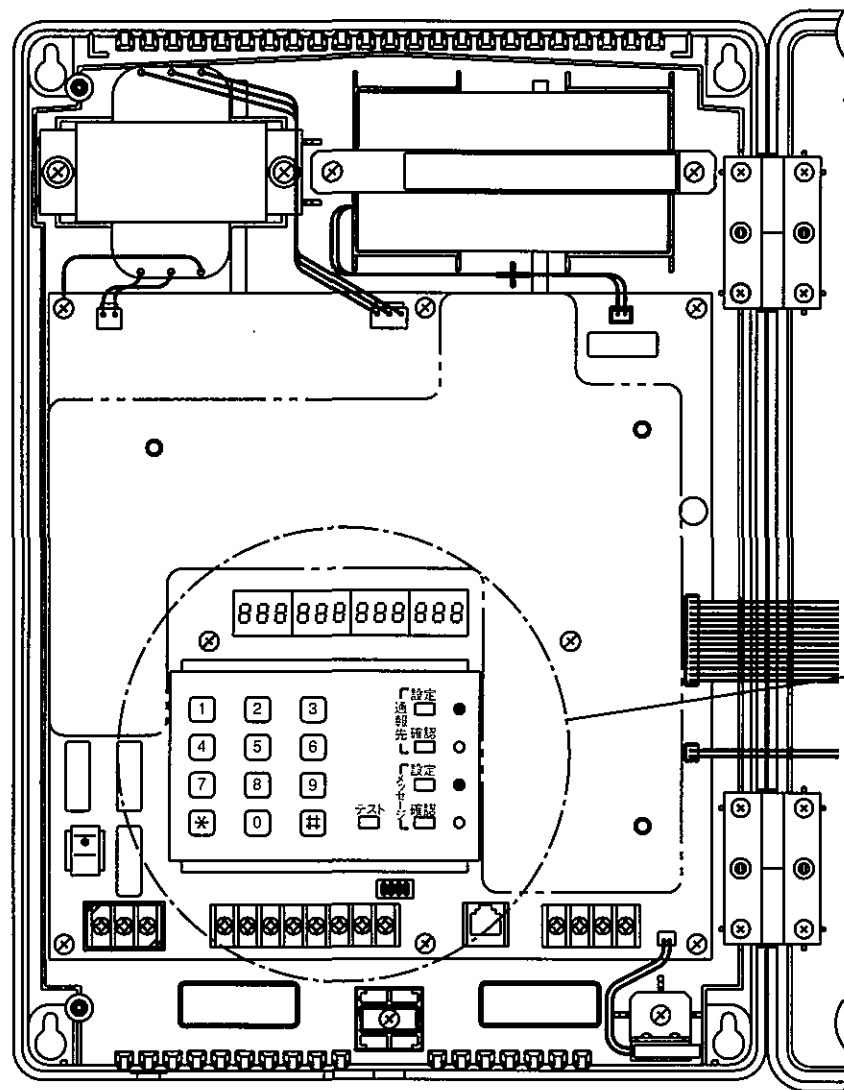
付図-2 火災通報装置 外観図



番号	名称	数量	記号
1	カバー	1	
2	ベース	1	
3	ハンドセット	1	
4	送受信紐	1	
5	MCU基板組立	1	
6	MCU基板組立	1	
7	HSU基板組立	1	
8	電源トランス	1	
9	電池	1	
10	スピーカ	1	
11	圧電ブザー	1	
12	録音ジャック	1	
13	マイクロホン	1	
14	開閉スイッチ	1	
15	電源スイッチ	1	
16	キーボード組立	1	
17	7seg表示	1組	
18	電源端子台	1	カバー付き
19	信号線端子台	2	
20	ケーブル押え	1	
21	ケーブル取入口	3	
22	MCUユニットカバー	1	
23	MCUユニットカバー	1	
24	蝶番	2	
25	ディップスイッチ	1	SW2
26	ヒューズ 3.15A	2	
27	ヒューズ 2A	1	
28	ヒューズ 0.1A	1	
	組立部品	一式	

注：部品の配置等は、概略を示す。

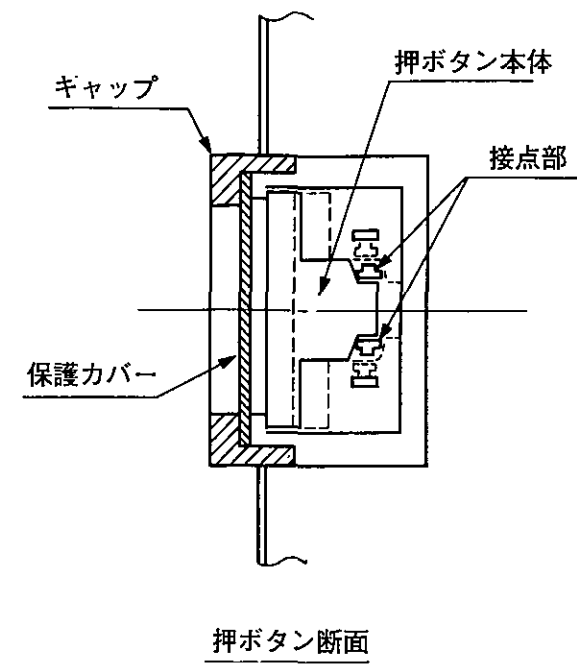
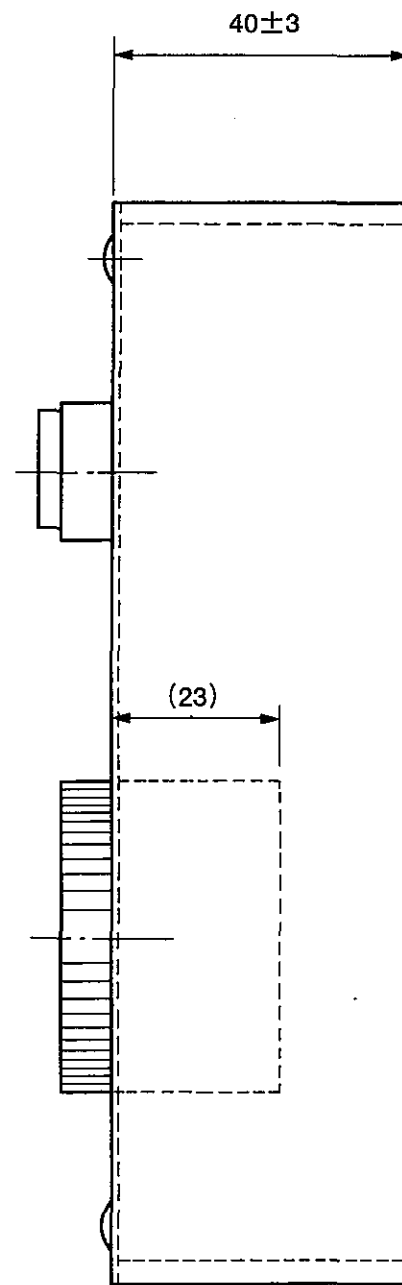
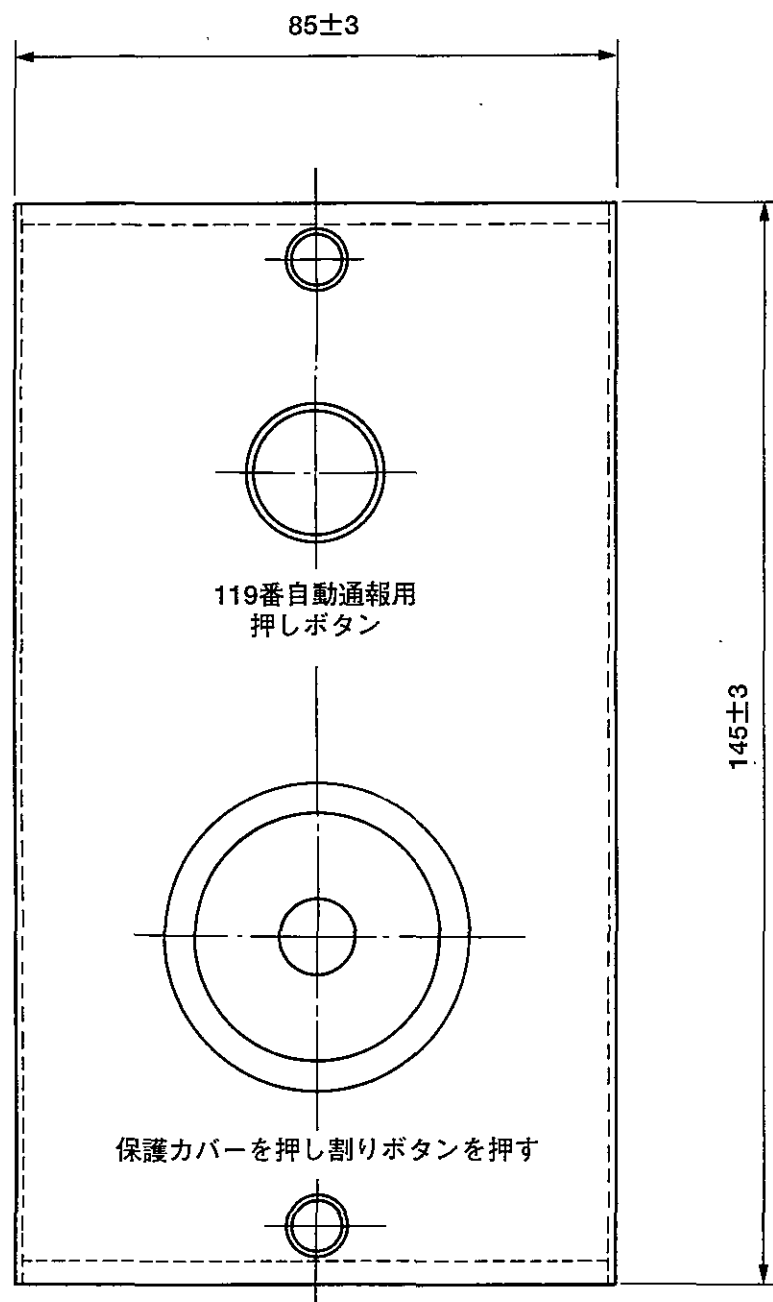
付図-3 火災通報装置 構造図



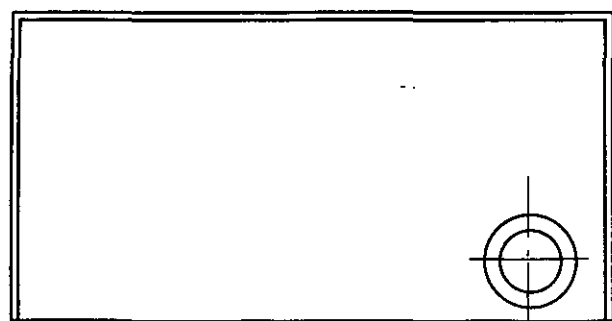
通報先ランプ

メッセージランプ

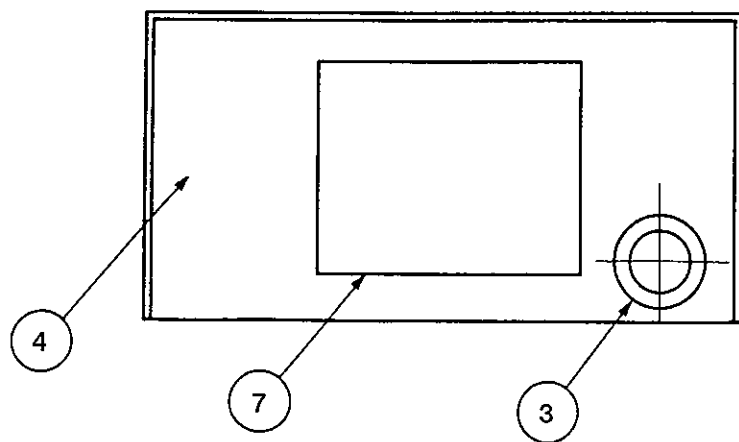
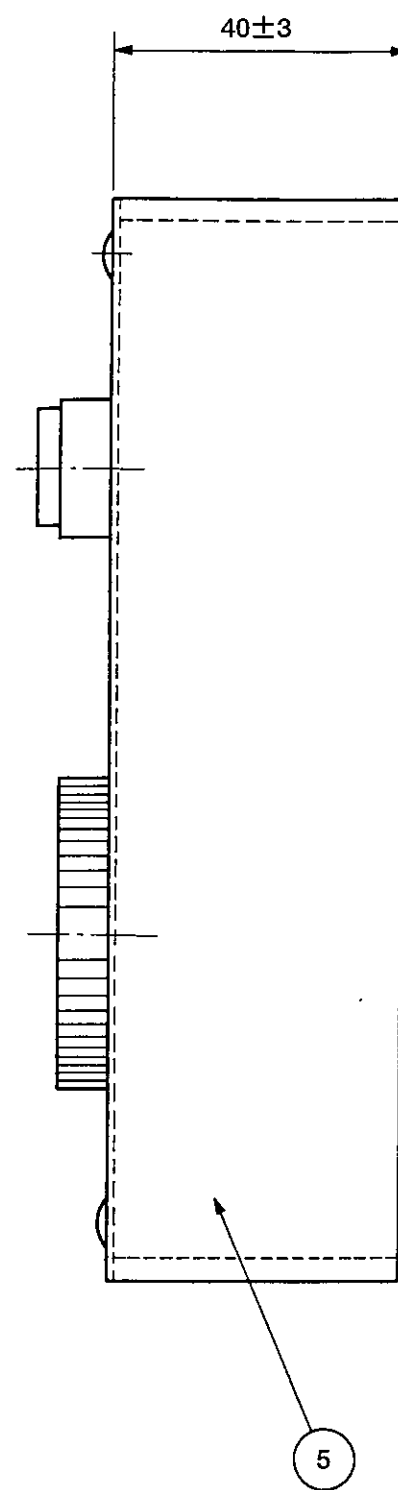
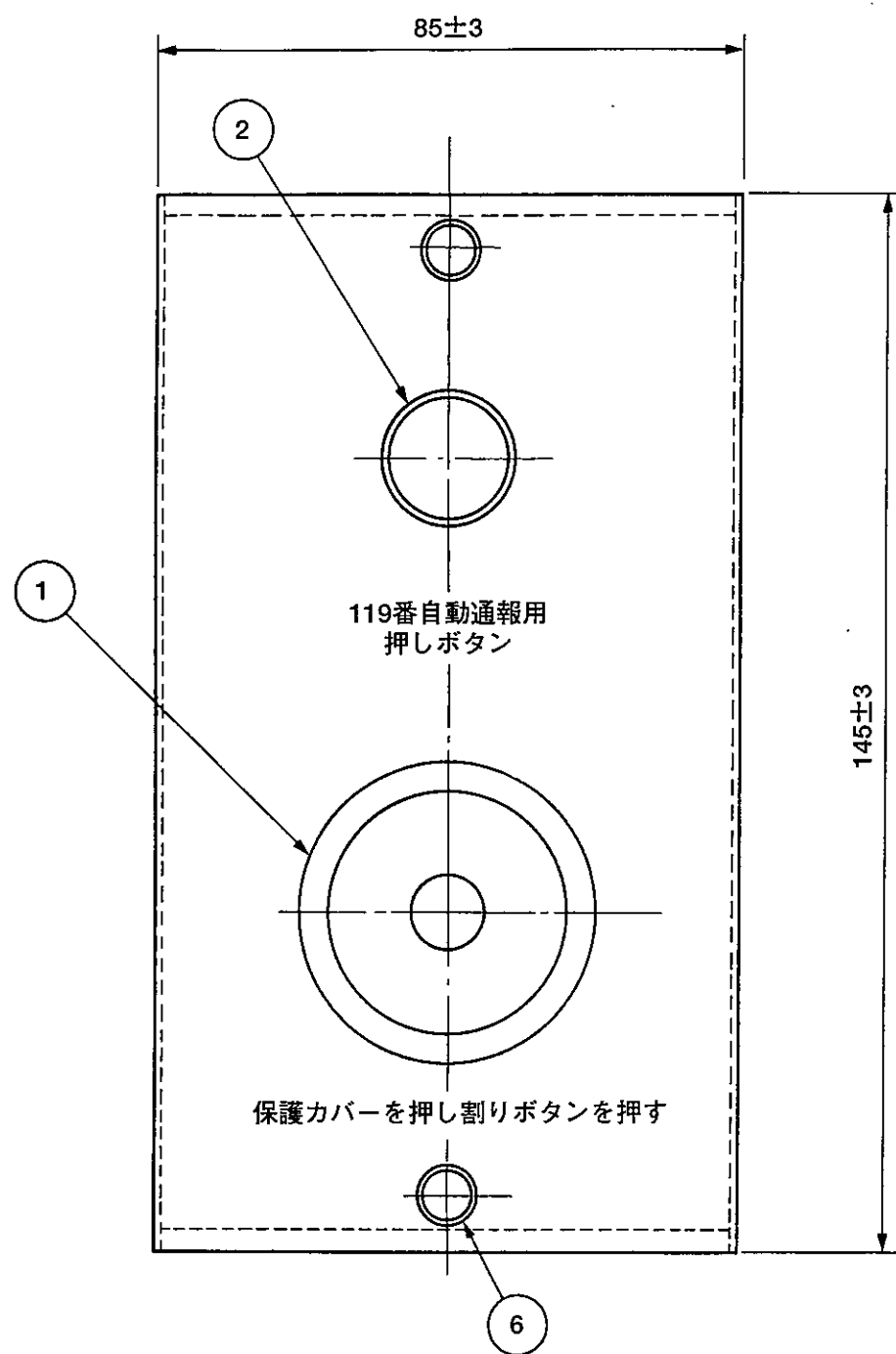
付図-4 設定用キー、ランプ、表示器 詳細図



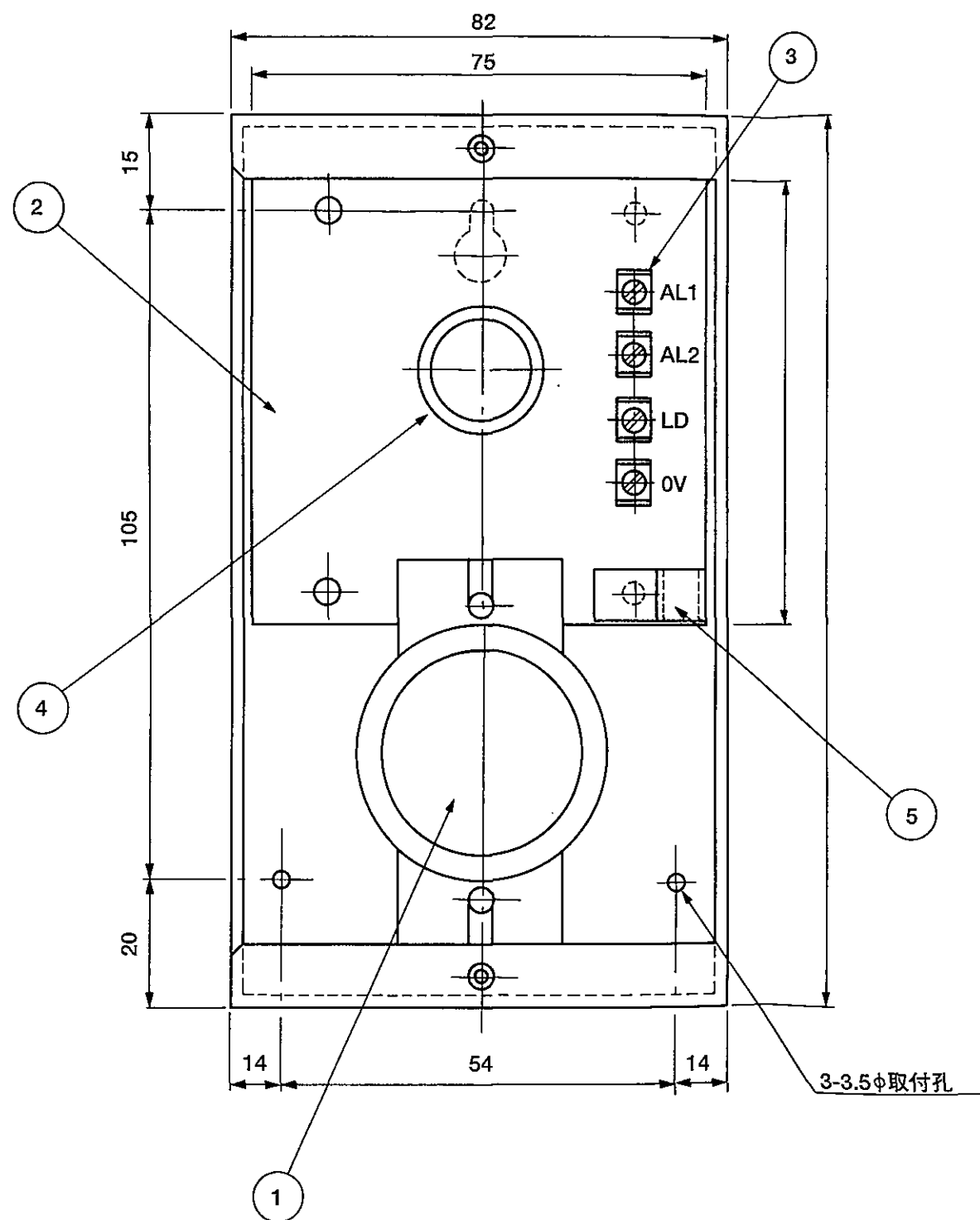
注1. ボタンの押し割り荷重は、6~8 kgf



塗装色：マンセル 7.5Y8/2 半艶



番号	名称	数量	記事
1	非常押し釦スイッチ	1	1249
2	表示灯	1	AH-164-XRB3 (赤)
3	グロメット	1	BU-687 (A)
4	シャーシ	1	t=1.2 SPC
5	カバー	1	t=1.2 SPC
6	カバー止めネジ	2	M3×6 トラス
7	品名紙	1	



番号	名称	数量	記事
1	非常押し釦スイッチ	1	1249
2	プリント基板	1	t=1.6 紙エポキシ
3	端子	4	P=104
4	表示灯	1	AH-164-ZRB3 (赤)
5	コードバンド	1	SN-4A